〔資料〕

ベッテルハイム訳ルカ伝現代表記版

浜島 敏 編*

序

1　沖縄の歴史と言語

九州南端から台湾に続く南西諸島は、奄美諸島などを含む薩南諸島と、沖縄諸島などを含む琉球諸島から成っているが、中国と日本の中間に位置するというその地理的位置から、中国と日本の双方がその領有権を主張し、それぞれの影響を受けていた。その狭間を縫って、なんとか独立を保ち、いわば琉球王国としての存在を主張していたことになる。尖閣諸島などは、今なおその領有権争いは続いている。

琉球（琉求）という言葉が中国の文献に登場するのは656年である。ただ、土地の人たちは自分たちを「沖縄人」（ウチナンチュー）と呼んでいた。「阿児奈波」（アチナハ）という記載は779年が最初であり、これが土地の人たちが使っていた固有語である。この諸島の呼称は、それ以後も「琉球」と「沖縄」の間で揺れることになるが、インターネット「関心空間」キーワード（琉球か沖縄か）www.kanshin.com/keyword/1122425によれば、これらの呼称は支配者の変更と連動していると言われている。簡単に言えば、この諸島が中国に帰属している時代には「琉球」が、日本に帰属している時代には「沖縄」が主張されていたという。領有権の主張のために、一つの島が、韓国で「獨島」と呼ばれ、日本で「竹島」と呼ばれているのと似ている。

＊ Bin HAMAJIMA　本学名誉教授

1429年統一王国が誕生し、これを琉求国と名乗った。すなわち明との関係が強化され、中国（明）に貢ぎを納めていた。1592～98年にかけて、秀吉が朝鮮出兵をした時には、秀吉から支援を要請されたが、それを拒否している。この中国よりの立場を脅かしたのが、1609年の日本薩摩藩による武力侵入である。これによって、琉球は中国に加え、日本（薩摩藩）にも貢ぎを納めるという二重帰属の形を取ることになった。しかし、その後も「王国」としての独立存在は続いていた。薩摩藩の文書には、17世紀から「沖縄」という言葉が使われている。

19世紀にこの島を訪れた欧米人はこれを「琉球」（Loo-choo、Lewchew）と呼んだ。19世紀に欧米からの開港を強制された江戸幕府は、布石としてまず「琉球」の開港を行った。琉球はそのように、最前線基地として、危険にさらされ、その犠牲ともなった。太平洋戦争では、沖縄は本土をひかえての激戦地となり、多く犠牲者を出した。終戦後は、米国の統治下に置かれ、日本に返還された後も、相変わらず、たくさんの米軍基地をもたなければならないという差別を受け続けている。

明治新政府は、1872（明治５）年、琉球王国を廃して琉球藩を設置、さらに1879年に政府は首里城明け渡しを強制し、琉球王国はその幕を閉じた。その時、琉球王は、北京に使節を遣わし、３日間にわたって、琉球を見捨てないで欲しいという嘆願をしたが、弱体化していた中国は、仲介を英国に頼んだ。英国は、琉球の意思よりも日本の主張を優位とし、日本への帰属を決めた。結局、琉球は一旦は鹿児島県に編入された後、同年中に沖縄県が設置され、沖縄の呼称を使用することで日本の領有として確定した。住民の意思よりも、大国の意思によって帰属が決められたということになる。事情は異なるが、ハワイ王国がその独立を失って、アメリカに帰属したことと類似している。日本との関係を重視し、日本と連邦制を敷きたいという願いが一部にあったのにも関わらず、日本が辞退したことで、アメリカ帰属が決定的になった。

太平洋戦争後、米国統治下に置かれ、再び「琉球」（Ryukyu）と呼ばれるようになったが、返還（1972年）と同時に、「沖縄」県となった。もっとも、ここには住民の願いが反映されている。住民が返還を強く求めなかったら、極端な場合は、そのまま米国の「リューキュー州」となった可能性がなかったとは言えない。

2　琉球語

琉球語は、世界の言語の中で日本語と唯一関係が証明されている言語である。日本諸語の一つであり、欧米には、まず「琉球語」（Loo-choo、Luchew language）として紹介された。琉球は、独特の文化を持ち、琉球語で書かれた文学も持っている。英国スコットランドがイングランドとは独立した文化を持ち、また言語と文学を持っていたのと類似している。

言葉の名称については、地名と同様、「琉球語」とか「沖縄語」、あるいは「沖縄方言」等と呼ばれている。元来言語的に「言語」と「方言」の区別は困難で、一般に思われているほど簡単ではない。言語間の相違の大きさだけでその区別をするのであれば、「ポルトガル語」と「スペイン語」や「スウェーデン語」と「ノルウェー語」、「マレーシア語」と「インドネシア語」のように、独立した言語とは言えないほど類似している「言語」もある一方、北京で話されている中国語と上海や南京で話されている言語は、お互いにそのままでは理解不能であるにも関わらず、一般には、それぞれ中国語の「北京方言」、「上海方言」、「広東方言」であるとされている（もっとも最近は『上海語入門』とか『広東語会話』と言った語学書が出版されてはいる）。「琉球語」という独立言語があってもおかしくない。日本語と琉球語は、見方によってはポルトガル語とスペイン語の差よりも大きい。

明治政府によって、沖縄県として日本に併合されると同時に、皇民化政策のもとに、「日本語」が強制されるようになり、1911年には悪名高い「方言札」による琉球語使用に対する罰則が学校で実施されるようになった。1937年には「改正氏姓呼称法」により、沖縄式氏名を大和風呼称に変更する法律が施行され、琉球文化が抹殺された。かなり徹底した同化教育が行われたことになる。朝鮮半島において、創氏改名が行われたのと共通の動きである。しかし、最近は、少数民族語の見直しが行われ、沖縄口（ウチナーグチ）が復活、また重んじられるようになってきている。ただ、面白いことに、現在では、日本文化と異なる沖縄固有の文化を強調する場合には、本来語である「沖縄」よりも、むしろ「琉球」を使うことが増えているように思える。これは、日本に対する一種の抵抗かも知れない。2004年には夏目漱石の『わが輩は猫である』が『我ねー猫どぅやる』というタイトルで出版された。1983年にスコットランド方言に翻訳された新約聖書

は、悪魔のみが「標準語」を語っている。ケセン語訳福音書が脚光を浴びている現在、将来、悪魔だけが標準語を語る「ウチナーグチ」に聖書を翻訳するくらいの抵抗があっても良いのではないかと淡い期待を持っている。

琉球語を日本語と独立した一つの言語と考える場合、共通琉球語に対する首里方言などの地域方言が存在することになる。本稿では、ベッテルハイムの滞在していた那覇の方言が中心になるが、単に「琉球語」と呼ぶことにする。それは、言語的には、日本語とかなり違った特徴を持っているということの他に、ベッテルハイムの翻訳が「琉球語訳」と言われることによる。

3　キリスト教伝来

キリスト教の伝来は、1622年、八重山に南蛮船が渡航して布教を行ったのが始まりであると言われている。日本ではキリスト教はすでに禁止されていたが、ジャワやルソンから往来する南蛮船が琉球諸島にたびたび寄港していた関係から、布教活動が行われたが、次第に琉球でもキリスト教は公には禁止されるようになり、また薩摩藩からも度々禁令が発せられて琉球側に伝達されていた。

幕末には、本土に比べ比較的開かれていた沖縄には、数々の外国船が乗り入れていた。宣教師を乗せた船もしばしば到来した。それによって上陸した宣教師にはギュツラフやウィリアムズを始めとする、後に日本宣教の働きを担うことになった人たちがあり、その際、琉球人と接触している。またペリーも日本遠征の途中、この島に寄港している。この島に宣教師として最初に居住をしたのは、カトリックのフォルカード伝道師であり、彼は、フランス海軍の威を借りて、中国人の高とともに入国し、那覇の天久聖現寺に滞在した。

1816年英海軍バジル・ホール艦長と共に琉球を訪れた元海軍大尉クリフォードは、琉球住民のことを忘れることができず、海軍を退役した後、英国人が琉球住民から受けた数々の恩義に対する返礼として、琉球宣教に対する強い願いを持った。彼は、短い琉球滞在中に、航海記の付録として、琉球語語彙集を書いている。彼は、ロンドンにおいて、琉球におけるキリスト教の布教を唯一の目的とする「琉球海軍伝道会」を設立した。そして1845年、伝道会は琉球へ派遣する最初の宣教師としてベッテルハイムを任命した。

4　ベッテルハイム略伝

ベッテルハイム（Bernard Jean Bettelheim）は、1811年にハンガリーで生まれたユダヤ人である。才能に恵まれ、早熟であった彼は、13歳の時から親元を離れ、語学教師をしながら自活の道を歩んだ。また、多才な彼は、10カ国語を越える言語を話すことが出来たということである。彼の語学に対する才能は、短期間に日本語（琉球語）を身に着けたことや、漢詩をも書くことが出来たことからも推測できる。1836年、彼はイタリアのパデュア大学から医師免許状を授与され医師になり、エジプト海軍やトルコ陸軍で軍医として働いた。トルコにいる時に、キリスト教に改宗、1840年英国教会の牧師から洗礼を受けてキリスト教徒となった。改宗後、海外での宣教活動を志し、英国に渡って準備をした。最初は、ユダヤ人であるゆえに、ユダヤ人伝道を考えたが、当時、英国ではまだユダヤ人差別がひどく、ユダヤ人であるがために英国聖公会の按手を受けることが出来ず、独立教会で働かざるを得なかった。1843年イギリス人女性と結婚し、英国籍を獲得した。

1845年琉球海軍伝道会の派遣宣教師に任命され、同（安政２）年９月ポーツマスを出航、翌年１月に香港に着き、４か月滞在した。その間に、ギュツラフ、ウィリアムズや彼らの助手を務めた日本人漂流者とも会っている。ベッテルハイム一家（妻と２人の子供）は、香港で雇った中国語の通訳劉と共に、1846（弘化３）年４月30日、那覇港に到着した。しかし、港では、琉球側の丁重な退去要請を受けた。それは、フォルカードの滞在に対する対応に苦慮していたからである。ところがベッテルハイムは、英国人である自分もフォルカード同様に沖縄に滞在する権利があると主張して、強引に那覇港に上陸してしまった。こうしてベッテルハイムの琉球伝道生活は、最初から琉球側との衝突から始まったのである。王府の手配した波之上の護国寺に住みながら布教活動を行った。しかし信教の自由が認められていたわけではなく、布教活動は様々妨害を受け困難を極めた。

家族が滞在した護国寺境内の前後には番所が常設され、警吏が詰めて一家の行動を厳重に監視した。外出の際にも常に尾行がつき、住民との接触は警吏によって妨害された。王府は一家へ使用人を派遣し、日用品や食料を無料で提供した。しかしそれでも最初の１年半、ベッテルハイムは比較的自由に行動でき、布教と施療を通して多くの住民と接触している。ところが、1847年10月国王尚育の国

葬の時、国王の葬儀に参加しようとしたベッテルハイム夫妻と２人の仏宣教師は、首里の入口で群衆に取り囲まれて殴打されたことから事情は変わる。以後彼らに対する官憲の監視体制が強化され、住民との接触がほとんど絶たれて、宣教師の行動は著しく制限された。もちろん街頭における伝道や医療活動も困難を極めた。しかしベッテルハイムはあらゆる妨害にも屈せず、1854年７月に沖縄を去るまで、精力的かつ強引に街頭での説教や那覇の民家への宗教冊子の投入を超人的に続けた。医者としての活動にも顕著なものがある。伝道活動の際には薬箱も携帯し、随時那覇の庶民への施療をした。また1848年ごろ、沖縄における最初の西洋式の種痘を導入した。日本における最初の種痘を試みた医者であったことは日本の医学の発達の上で特記すべき事柄である。

1854年２月、後任のG.H.モートン師が那覇に着任し、同年７月、琉球における８年間の宣教を終え、ベッテルハイムはペリー艦隊が帰国の途中、那覇に寄ったのを機に、これに便乗して沖縄を去った。また、琉球宣教に当たり、琉球語で賛美歌をも作詞・作曲をしている。燦葉出版社の『琉球語讃美歌』に載せられている。「祝福あれ、リュウチュウに、祝福あれ、人々に」という単純な歌であるが、彼の思いがこもっている。彼は心から琉球を愛した人である。それは、彼が自分の娘に「リュウチュウ」という名前を付けたことでも知られる。

翌年英国への帰途、立ち寄った米国に永住することになった。数年ニューヨークに住んだ後、イリノイ州に移住し、南北戦争中、北軍の軍医として活躍した。戦後一家はミズーリ州に移ったが、1870年２月、彼は肺炎がもとで亡くなった。ベッテルハイムは、アメリカに渡ってからも再度日本本土への宣教に期待しながら、自分の翻訳に修正を加えていた。

日本と琉球の関係は、今と同じではないが、ベッテルハイムは、日本が開国する以前から日本（琉球）に上陸、直接日本人に宣教した最初のプロテスタント宣教師である。今年2009年は、プロテスタント伝道150周年記念年と言われるが、実はここにも、沖縄軽視が見える。長崎、横浜に宣教師が上陸する３年前にすでに沖縄にはベッテルハイムが上陸し、宣教を始めているのである。

彼が、沖縄で８年余り、あらゆる困難と闘いながら伝道・医療・聖書翻訳をやりとげたことは、高く評価されるべきであろう。

5　聖書翻訳事業

ベッテルハイムはこのように住民へ医療サービスと一般の布教を行ったのであるが、彼が特に精力と時間を注いだのが聖書の翻訳であった。翻訳は上陸の翌年から始められた。まず、彼は滞在中琉球語を修得し、1847年２月からルカ伝の翻訳を始めて、同年７月には、これを一応終わっている。続いて、ヨハネ伝、ロマ書、使徒言行録、マタイ伝、マルコ伝を翻訳していった。

翻訳作業を、護国寺に詰めていた役人（通事）に手伝ってもらっているが、もちろん鎖国下で禁制宗教書である聖書の翻訳に積極的に協力するわけはなく、通事達の協力は極めて消極的なものであった。ベッテルハイムの翻訳した文中に意味不明なところや誤記が多い一つの理由はこのためである。強度の近眼のうえ、次第に健康まで損ねてきた彼にとって、翻訳事業は真に血と汗の結晶といえる。

ベッテルハイムの翻訳は、三段階で行われた。1847年までに翻訳したルカ伝、使徒行伝、ヨハネ伝、ロマ書は琉球語の口語訳である。ところが、この琉球語訳が日本本土で使用できないことを知ると同時に、日本人が漢文の訓読を行っていることを知った彼は、中国語聖書と並べ（まず中国語で１パラグラフ書き、続いてカタカナ書きが続いている）、漢和対訳を行ったが、これが第二段階である。この時に漢文に合わせ、日本語の部分にもかなり大幅な修正が行われている。後年、アメリカ本土に渡った後、さらに日本本土向けの改訂を行ったが、これが彼の最終翻訳となっている。

これら原稿に基づいて、1855（安政２）年に、琉球語訳ルカ伝、ヨハネ伝、使徒言行録、ロマ書を香港から出版した。これとは別に、漢和対訳の聖書は1858（安政５）年に同じく香港から出版している。これはルカ伝のみが知られていたが、同じく対訳のマタイ伝とマルコ伝の筆記原稿が、1976年英国内外聖書協会で発見され、1979年に復刻出版された。これらがルカ伝と同様に香港で出版されなかった理由ははっきりしないが、香港寄港の時までには完成していなかったものなのかも知れない。ヨハネ伝については、その存在が知られていない。これらの日本語の部分は、基本的にカタカナ表記である。アメリカ滞在中に、より正確で、しかも読みやすい日本語に改訂した最終版は、彼の死後ベッテルハイム未人が、出版を依頼したものであり、ルカ伝、ヨハネ伝、使徒言行録の三冊が、1874（明治６）年にウィーンから出版された。これは、平仮名（変体仮名）で

書かれており、香港版（木版印刷）とは違って、鉛活字印刷になっている。一、二、三段階すべてそろっているのは、ルカ伝だけであるが、比較してみると、実際の改訂は対訳版を作った時に、主な部分は行われたと考えたと考えられる。第二段階であれ、第三段階であれ、いずれにせよ、これらには日本人の助手がいたものと思われるが、その名は知られていない。第二段階のものは、沖縄の役人によるものかもしれない。アメリカで行った修正には、また別の日本人がいたものと思われるが、その名前は知られていない。以後香港刊琉球語訳を（H1）、香港刊漢和対訳を（H2）、ウィーン刊日本語訳を（W）と省略する。

これらを表にして表すと次のようになる。

表１

	琉球語	対訳	日本語（最終版）
マタイ伝		原稿1978年発見	
マタイ伝		原稿1978年発見	
ルカ伝	香港1855（H1）	香港1855（H2）	ウィーン1873（W）
ヨハネ伝	香港1855		ウィーン1873
使徒言行録	香港1855		ウィーン1874
ローマ書	香港1855		

６　ベッテルハイム訳の特徴

以下は、筆者の仮説である。琉球語の翻訳は、元来少なくとも福音書は全部がそろっていたはずである。それは、福音書の翻訳を終えているという彼の証言からも分かる。漢和対訳についても、おそらく福音書と使徒については、完成していたのではないかと推測する。現在確認されているウィーン版日本語訳は、ルカ伝、ヨハネ伝、使徒の三書しかないが、ヨハネ伝と使徒が最終版としてウィーンで出版されていることから、その前段階である対訳があったことが推測できるからである。また、ヨハネ伝、使徒の両書の香港1855とウィーン1873、74ではかなり表現が変わっているので、その中間である対訳があったと推測するのが自然であろう。この二書が出版されなかった理由は不明であるが、琉球を去る時点で、まだ作業中であったのかも知れない。ただ、この二書（ヨハネ、使徒）については、原稿の形であれ、どこかに存在している可能性があると言える。

最終版の原稿はベッテルハイム夫人が提供したものであるので、ベッテルハイムが死亡した時点では、この三書の原稿しかなかったのであろう。マタイ伝、マルコ伝については、対訳までを試みて、最終段階の日本語訳は、まだ完成していなかった可能性が高い。いずれにせよ、前に述べたように、現時点で琉球語、対訳、日本語の三点がそろっているのは、ルカ伝のみである。ベッテルハイムの翻訳の経過を見るのには最も相応しいものであると考えられる。

（H1）は、完全な琉球語訳であり、次に続くものとはかなり異なっているのに対し、（H2）と（W）とは、翻訳としてみる場合、ほぼ等しいと見ることが出来るが、いくつかの相違点もある。一つは、（H2）には、琉球語の名残が見られることである。また、（H2）を（W）に修正する段階で、イエスに対する敬意的表現が増えていることが上げられる。例えば、イエスを呼ぶに当たって、（H2）では、「汝」となっているもののいくつかが、（W）では「あなた」となっていることである。さらに、動詞に「給う」を付す回数が増えている。特に頻繁に出てくる（H2）の「イツテイハク」が（W）では、「いひていひ給はく」という表現に変えられている。（W）には、「給」（漢字表記）が非常に多い。別の特徴として、漢字の読みに対して、（H2）では、音読みをさせているのに対して、訓読みに変更になっているものがかなりの数あることである。「山」（「サン」→「やま」）である。これは、琉球語の方が音読みが多いという一般的な状況から来ているものなのか、他の理由があるのかは不明である。大陸に近い沖縄が中国式の音読みを多く用いている可能性はある。

次に、琉球語香港刊1855（H1）、対訳香港刊1858（H2）、とウィーン刊1874（W）の見本として、２章冒頭の部分の原文を掲載し、それぞれの違いを解説する。

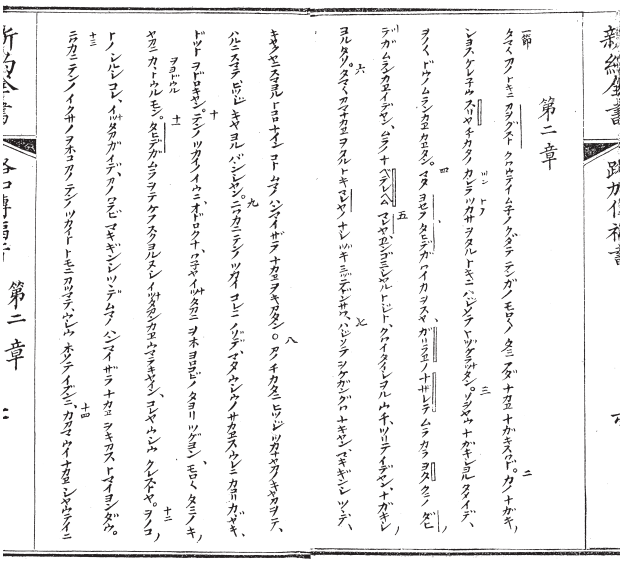

図１（H1）

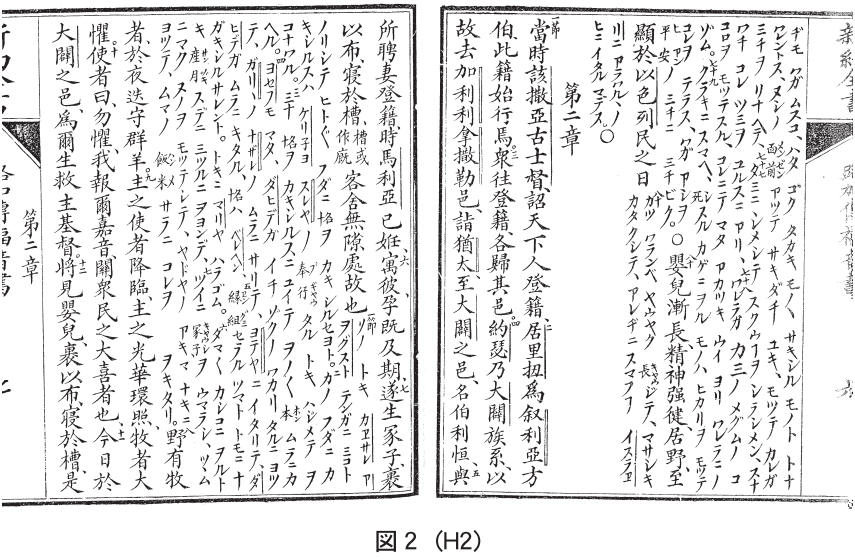

図２（H2）

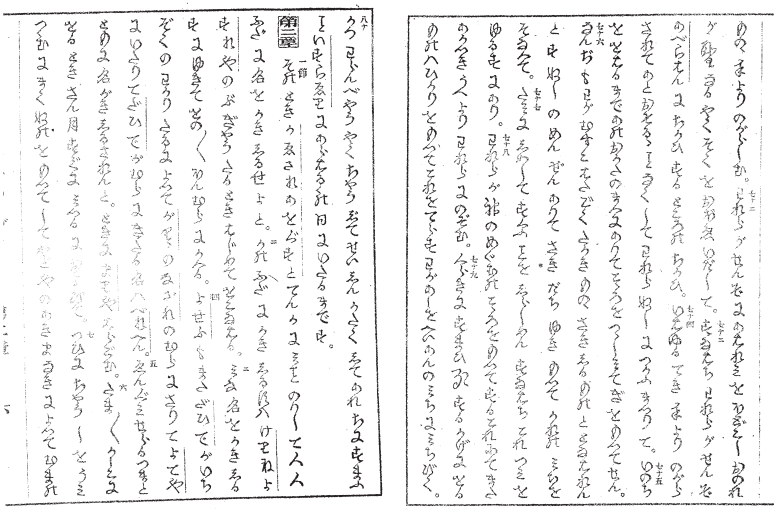

図3（W）

図１～３から知られるように、（H1）は全てカタカナ書き、（H2）は、ほとんどカタカナ書きではあるが、一部漢字がルビの形（漢字にカタカナのルビもある）で付されている。それに対し（W）はほとんどが、平仮名（変体仮名）であり、一部漢字（この部分では、「名」「人」「月」）があるものの、ルビは付されていないので、読み方は確定できない。また、（H2）、（W）は分かち書きがされているのに対し（H1）ははっきりしない。

１節から７節までの部分から、いくつかの例を挙げて解説する。①（H1）「アヲグストクワウテイ」（アオグスト皇帝）→（H2, W）「カエサレアヲグスト」（カエサレ・アオグスト）；（H1）「ムネノクダテ」（旨の下って）→（H2, W）「ミコトノリシテ」（詔して）；②（H1）「スリヤチカタノカシラツカサ」（スリヤ地方の頭司）→（H2, W）「スリヤのブギヤウ」（スリヤの奉行）；③ H1「ドウノムラ」（胴の村）【duu（自分）e.g.[duunu 'jaa]（胴の屋＝自分の家）】→（H2, W）「本ムラ」（本村）；④（H1）「ダヒデガワイカ」（ダビデの親戚）【[ʔweeka]（親戚、親類）】→（H2,W）「イチゾクノワカリ」（一族の分かれ）；（7）（H1）「ヲケガングワ」（男の子）【['wikigaʔgwa]<'wikiga（男）＋ [ɢkwa]（子）】→（H2）「キヤウシ」（冢子）→（W）「ちやうし」（冢子）；（H1）「ナキヤン」（産んだ）【[na=sjuɴ]（産む）】→（H2）「ウマラシ」→（W）「うみ」（産み）；（H1）

「マキギンシ」（巻き衣）【[ciɴci]（衣着）→（H2,W）「マクヌノ」（巻く布）；（H1）「ムマノハンマイザラ」（馬の飯米皿＝飼い葉桶）【[ʔɴma]（馬）＋[haɴmee]（飯米＝餌）＋ [sara]（皿）】→（H2,W）「ムマノハンメサラ」。

これから知られるとおり、文体は、（H1）が、純粋に琉球語であるのに対し、（H2）はところどころ、その名残があるとはいえ、かなり修正されており、むしろ（W）に近いことが分かる。

7　使用変体仮名・表記

本稿はベッテルハイムの最終版ということで、ウィーン版にはしているが、この解読もかなり困難である。いくつかの理由が挙げられるが、まず、変体仮名の形が非常に複雑であることが上げられる。次に、仮名であるために同音異義語が多く、その判断がかなり困難であること、そして、ミスプリントもかなりあるということもこの解読を困難にしている。最後に、かなり修正されているとは言え、沖縄方言の名残が見られること、またさまざまな間違い、あるいは単なる誤記などもある。１、２の例を挙げる。

（1）変体仮名の読み

変体仮名の「て」（てゝ）と「く」（くゝ）は、かなり似ている。そこで「すでに」か「すぐに」かの判断が困難なものがある。その際、（H2）のカタカナが大変役に立つ。「スデニ」と「スグニ」の違いははっきりしているからである。その他「つ」（つ）と「ほ」（ほ）、「に」（に）と「ふ」（ふ）、「や」（や）と「ゆ」（ゆ）の区別なども難しい。他にも、紛らわしい文字として、漢字「人」（人）にたいする「く」も上げられる。

（2）同音異義語

「ふし、ふし」（節、不死、父子等）という言葉が、かなり頻繁に使われている。これは、（W）だけでは、判断が難しいが、（H2）に、「フシ」の隣に「夫子」という漢字ルビが付されていることで、これが「夫子（ふうし）」のことであることが分かる。この言葉は、一般的な言葉ではないが、孔子などの偉大な教師に対しての呼びかけとして用いられている言葉である。

（3）誤記

８章５節に「さねまく・・」と読める個所があるが、これは変体仮名の「た

(ゑ)」に間違って、横棒が入ったために「さ」になってしまっている例である。また、仮名の中に突然漢字が使われている場合もある。それも草書で書かれているために、変体仮名と区別がつけにくい。13：10「よりいひ屋」とあるのは、「よりあひ屋」の単純な誤記である。

(4) その他

これらは、基本的には、いわゆる歴史的仮名遣いで書かれてはいるが、その表記は正確な歴史的表記ではない。例えば、「籤（くぢ）＜ くじ」（＜ の後の表記が歴史的に正しい表記、（　）内が実際に用いられている表記）などのように、「ぢ」と「じ」、「づ」と「ず」の区別は曖昧である。「を」、「ゑ」の使用も多いが、これも必ずしも歴史的なものではない。「縁組み（ゑんぐみ）＜ えんぐみ」、「声（こへ）＜ こゑ」、「栄華（ゑいぐは）＜ えいぐゎ」、「父親（ちちをや）＜ ちちおや」。「ヰ」もあるが、これも歴史的表記ではない。「ヰキ」＜「イキ」（行き）。また、長音の表記も首尾一貫していない。「通り（とをり）＜ とほり」、「葡萄酒（ぶどうしう）＜ ぶだうしゅ」等、多い。また、「聞こえ（きこゑ）＜ きこえ」、「現れる（あらはれる）＜ あらわれる」等の混同も多い。(W) とは違うが、(H1) では、4：21に現在の「キョー」となる語が二回現れる。一つは、「経」で、今一つは「今日」である。歴史的には、「今日」は「ケフ」であり、「経」は「キヤウ」であるが、ここでは反対になっている。

(5) 漢字表記

漢字がいくつか使われている。ほぼ常に漢字であるものには、「神、聖、名、給」等があり、時々漢字であるものには、「人、月、」等がある。しかし、その特徴は、漢字にはルビが振られていないことである。そのために、ベッテルハイムがなんと読ませようとしているかが不明である。ただ、(H2) がほぼ同じ翻訳でありながら、漢字表記の場合、ルビが振られていることで、想像することができる。特に、「神」については、すべて漢字で書かれており、一般には「カミ」の読みが想像されるが、すべてがそうなっていない。ベッテルハイムは、「霊」を表す場合には、神（シン）と読ませようとしていることが、(H2) によって分かる。

8　編集方法

本稿は、ベッテルハイム訳ウィーン版ルカ伝（W）の現代表記版である。(H1)

がベッテルハイムの最初の翻訳であるが、カタカナ書きの上、表記ミスが非常に多いために、非常に読みにくい。その上、琉球語は、日本語と音素が異なり、日本語のカタカナ表記では正確には表せない。そればかりでなく、ベッテルハイムの琉球語修得の不完全さや、上に述べた役人の悪意、他の理由から、多くの誤記が生じている。それに対し、（W）は、もちろん、沖縄方言の特徴は残ってはいるものの、かなり修正されて読みやすくなっている。ベッテルハイムの最終版として、これを今回現代版の基準とする。ただし、漢字の読みなど、（H2）を参考にして修正を加えている。それらの修正については、注において説明する。その際、（H2）が役に立っている。従って、明らかにミスと考えられるものについては、（H2）で修正している。さらに、（H2）は漢訳聖書との対訳であるために、漢字によって、判断の難しい同音異義語の発見に役立つこともしばしばである。（H1）については、解読のための参考になることは少ない。

注の中のローマ字表記は、国立国語研究所『沖縄語辞典』に従った。これは、音素表記であるのに対し、内間直仁他『沖縄語辞典』がカタカナと音声表記を行っている。先述したように、沖縄の各方言は、それぞれ発音の違いがあり、かえって「音素表記」の方が好ましいと考えたのが一つの理由であるが、それよりも、この辞典が最も大きなものであり、最も多く参照した辞書であるからである。

本稿は、（W）を基本として、（H2）によって修正を加えたものを中心にしている。（H1）は方言が強いために解読不能の個所が多く、あまり参考にしてない。ただし、発音や語彙など、言語学的に特別に興味があると思われるものについては、注で解説している。なお、本文の表記の方法は歴史的な表記ではなく、現在の表記に改めている。

本文中の（　）は、意味を明確にするための筆者追加。

参考書目

１．ベッテルハイム・聖書翻訳関係

門脇清他（1983）『門脇文庫日本語聖書翻訳史』新教出版社

照屋喜彦（2004）『英宣教医ベッテルハイム』人文書院

２．一般辞書・古辞書

『日本国語大辞典』

山田俊雄（1995）『現代語・古語　新潮国語辞典』新潮社
阿久根末忠（1995）『活用自在同音同訓異字』柏書房
板倉聖宣（2008）『変体仮名とその覚え方』仮説社
児玉幸多（1975）『くずし字解読辞典』近藤出版社
土井忠生、他（1980）『邦訳日葡辞書』岩波書店（原典1603）
『メドハースト英和・和英語彙』（2000）（復刻版）、三省堂（原典1830）
『類聚紅毛語訳・改正増補蛮語箋・英語箋』（2005）港の人（原典1798、1845、1861）
３．琉球語・沖縄語辞典、文法書
Chamberlain, B.H., Essay in Aid of a Grammar and Dictionary of the Luchuan Language, 1895、（山口栄鉄訳〔2005〕『琉球語の文法と辞典』琉球新報社）
Clifford, H.J., A Vocabulary of the Loo-choo Language, 1818（複製、クリフォード『琉球語彙』勉誠社文庫71、1979）
内間直仁他（2006）『沖縄語辞典』研究社
国立国語研究所（1975）資料集5『沖縄語辞典』大蔵省
『日本方言大辞典』（1989）全三巻小学館
中松竹雄（1999）『大琉球語辞典』げんけん出版
中本正智（1981）『図説琉球語辞典』琉球沖縄本、力富書房金鶏社
半田 一郎（2000）『琉球語辞典―那覇・首里を中心とする沖縄広域語準拠』大学書林
「琉球語音声データベース」（ryukyu-lang.lib.u-ryukyu.ac.jp/intro/index.html）

香港版のヨハネ伝については、特にベッテルハイムの研究者である沖縄国際大学の伊波和正教授が、ローマ字表記も含めて、詳しい解説をしている。また、これには、共通語への翻訳も付されている上、ベッテルハイムの『英琉辞書』が付されているので、大変参考になる。本稿『ルカによる福音書』は、これほど専門的で詳しいものではないが、ルカ伝の現代表記版は始めての試みであり、これによって、ベッテルハイムの翻訳の一端を知ることが出来ると確信している。特に、（H1）から（H2）そして（W）への流れが分かることがルカ伝を取り上げた一つの意味であろうと考える。

路加傳福音書（ベッテルハイム）

ろかのよろこびおとづれをつたふのしよもつ
The Gospel according to S. LUKE

第一章

1 蓋し、多き人あり。我らがうち究め証拠せらるのことをもって、いちいち述べ記し、

1 ¶Forasmuch as many have taken to hand to set forth to order a declaration of those things which are most surely believed among us,

2 その初めより親しく見て、而して、理を教える者どもの我らに伝えたる通りにせんとする。

2 Even as they delivered them unto us, which from the beginning were eye-witnesses, and ministers of the word;

3 ゆえに、我もまた初めより、こと皆、全く悟りたり。いちいち汝、尊きテオヒロに書かんとするを宜しと思いて、

3 It seemed good to me also, having had perfect understanding of all things from the very first, to write unto thee in order, most excellent Theophilus,

4 汝が学ぶところの実を知らしめん。

4 That thou mightest know the certainty of those things wherein thou hast been instructed.

5 ヘロデ、ヨテヤ王の時、アビヤの連ねに属する祭司あり —— 名はザカリヤ。その妻アロンが後方 —— 名はイリサベ。

5 ¶There was in the days of Herod the king of Judea, a certain priest named Zacharias, of the course of Abia: and his wife *was* of the daughters of Aaron, and her name *was* Elisabeth.

6 二人、神の目前にありて、義なる者なり。主の戒めと礼法とに従いて、責めらるところなし。

6 And they were both righteous before God, walking in all the commandments and

ordinances of the Lord blameless.

7 イリサベは、石女たり。二人も年老いたるによって子なし。

7 And they had no child, because that Elisabeth was barren, and they both were *now* well stricken in years.

8 たまたまザカリヤその連ねの次第によって、神の前に祭司の職分をなす時は、

8 And it came to pass, that while he executed the priests office before God in the order of his course,

9 祭司の族に従いて籤を取りて、主の寺に入りて、香を焼くことを得る。

9 According to the custom of the priests office, his lot was to burn incense when he went into the temple of the Lord.

10 香を焼くの間、民皆外にありて祈る。

10 And the whole multitude of the people were praying without, at the time of incense.

11 主の天つ使い現れて、香台の右に立つ。

11 And there appeared unto him an angel of the Lord, standing on the right side of the altar of incense.

12 ザカリヤこれを見て、騒ぎ恐る。

12 And when Zacharias saw *him,* he was troubled, and fear fell upon him.

13 天の使いの曰く、「ザカリヤ、恐ることなかれ。汝が祈りすでに聞かれて、汝が妻イリサベ、息子を産みて、汝、彼が名をヨハンと呼ばわんとす。

13 But the angel said unto him, Fear not, Zacharias: for thy prayer is heard; and thy wife Elisabeth shall bear thee a son, and thou shalt call his name John.

14 汝、喜び楽しみて、多き人その生まれるを喜ばんとす。

14 And thou shalt have joy and gladness, and many shall rejoice at his birth.

15 よって、主の目前にありて、彼はた大いなりとして、葡萄酒と酒と飲まず、母の胎よりして、而して聖神（＝聖霊）に満ちて、

15 For he shall be great in the sight of the Lord, and shall drink neither wine nor strong drink: and he shall be filled with the Holy Ghost, even from his mother's womb.

16 多くのイスラエリが子供をして転じて主に、すなわちその神に帰らしめんと

す。

16 And many of the children of Israel shall he turn to the Lord their God.

17 彼はたイリヤが神徳をもって、主の前に先立ちて、親の心を子供に、逆う者をして義なる者の才知に帰して、主のために用意する民を備わらしむ」。

17 And he shall go before him in the spirit and power of Elias, to turn the hearts of the fathers to the children, and the disobedient to the wisdom of the just; to make ready a people prepared for the Lord.

18 ザカリヤは天の使いに言いて曰く、「我すでに老して、妻も年老いたり。如何にして、その必ず然るを知るや」。

18 And Zacharias said unto the angel, Whereby shall I know this? for I am an old man, and my wife well stricken in years.

19 天の使いの答えて曰く、「我はいましガベリリ、神の目前に立つ。今遣いを受けて、汝にこの喜びの音信を詔せしむ。

19 And the angel answering, said unto him, I am Gabriel, that stand in the presence of God; and am sent to speak unto thee, and to shew thee these glad tidings.

20 見よかな、ことの成就するの日に至るまで、汝必ず唖にして、物言うこと能わず。汝、我がその時徴にならんとする言葉を信ぜざるによってなり」。

22 And behold, thou shalt be dumb, and not able to speak, until the day that these things shall be performed, because thou believest not my words, which shall be fulfilled in their season.

21 民ザカリヤを待ちて、その寺内に斯くほど久しうするを珍しとす。

21 And the people waited for Zacharias, and marvelled that he tarried so long in the temple.

22 出るにおよびて、彼らに語ること能わず。なお黙して招きたるゆえに、その寺内に現れるところを見たると知る。

22 And when he came out, he could not speak unto them: and they perceived that he had seen a vision in the temple: for he beckoned unto them, and remained speechless.

23 職分する日満ちて、而して家に帰る。

23 And it came to pass, that as soon as the days of his ministration were accomplished, he departed to his own house.
24 後、彼が妻イリザベ孕みて、静かに隠るること五か月、曰く、

24 And after those days his wife Elisabeth conceived, and hid herself five months, saying,
25 「主、我を見給う時は、我に施すこと斯くの如し。人の中に受けるところの侮りを除けたり」。

25 Thus hath the Lord dealt with me in the days wherein he looked on me, to take away my reproach among men.
26 第六か月に天の使いガベリリ、神の遣いを受けて、ガリリのナザレの村に行きて、

26 And in the sixth month, the angel Gabriel was sent from God unto a city of Galilee, named Nazareth,
27 一人の童女に臨みて —— 名はマリヤ、ダビデが一族、ヨセフという者に縁組みせる。

27 To a virgin espoused to a man whose name was Joseph, of the house of David; and the virgin's name was Mary.
28 天の使いの進みて入りて、曰く、「至りて恵まるるの女、良きこと。主、汝を助けて、諸々の女のうち、汝幸いあるかな」。

28 And the angel came in unto her, and said, Hail, *thou that art* highly favoured, the Lord *is* with thee: blessed *art* thou among women.
29 マリヤこれを見て、その言葉を安んぜずして、その平安を問うは、何のゆえぞやと思う。

29 And when she saw him, she was troubled at his saying, and cast in her mind what manner of salutation this should be.
30 天の使いの曰く、「マリヤか、驚くことなかれ。汝神の恩を得たり。

30 And the angel said unto her, Fear not, Mary: for thou hast found favour with God.
31 見よかな、汝まさに孕みて、息子を産みて、名をヱソと称わんとす。

31 And behold, thou shalt conceive in thy womb, and bring forth a son, and shalt

call his name JESUS.

32 彼、はた大いに起こりて、極く高き者の息子と呼ばわる。主、神その先祖のダビデが位をもって、彼に与えんとす。

32 He shall be great, and shall be called the Son of the Highest; and the Lord God shall give unto him the throne of his father David.

33 永々に、ヤコベが一家を司りて、彼が国、極まりなし。

33 And he shall reign over the house of Jacob for ever, and of his kingdom there shall be no end.

34 マリヤ天の使いに曰く、我未だ夫に適せず。如何にして、このことなるや」。

34 Then said Mary unto the angel, How shall this be, seeing I know not a man?

35 天の使いの曰く、「聖神将に汝に降りて、極く高き者の力、汝が上に庇う。これをもって汝に生まれんとする聖なる者、神の息子と称われんとす。

35 And the angel answered and said unto her, The Holy Ghost shall come upon thee, and the power of the Highest shall overshadow thee: therefore also that holy thing which shall be born of thee, shall be called the Son of God.

36 かつ、汝が親戚イリサベもまた老いて、しかも息子を孕む。元より石女と称えども、今すでに六か月なる。

36 And behold, thy cousin Elisabeth, she hath also conceived a son in her old age: and this is the sixth month with her who was called a barren:

37 蓋し、神は能わずということなし」。

37 For with God nothing shall be impossible

38 マリヤが曰く、「主の仕われ女ここにあり。汝言うがごとく我になれよ」。天の使いは、ついに彼より去る。

38 And Mary said, Behold the handmaid of the Lord, be it unto me according to thy word. And the angel departed from her.

39 その時マリヤ出立し、急ぎ山国に行きて、ヨテヤの一村に至りて、

39 And Mary arose in those days, and went into the hill country with haste, into a city of Juda,

40 ザカリヤが家に入りて、イリサベの平安を問う。

40 And entered into the house of Zacharias, and saluted Elisabeth.

41 イリサベはマリヤが平安を問うを聞きて、すなわち胎内の子踊りて、イリサベも聖神に満ちたり。

41 And it came to pass, that when Elisabeth heard the salutation of Mary, the babe leaped in her womb: and Elisabeth was filled with the Holy Ghost.

42 高き声して、呼びて曰く、「諸々の女のうち、汝幸いあり。汝が胎内の子もまた幸いあり。

42 And she spake out with a loud voice, and said, Blessed *art* thou among women, and blessed is the fruit of thy womb.

42 我が主の母、我につくはなんそれぞこれを得るや。

43 And whence is this to me that the mother of my Lord should come to me?

44 蓋し、汝が平安を問うの声、我が耳に響きて、すなわち、胎内の子喜びて踊りたり」。

44 For lo, as soon as the voice of thy salutation sounded in mine ears, the babe leaped in my womb for joy.

45 汝、主の言葉必ず応ずると信じて、すなわち幸いあり。

45 And blessed is she that believed: for there shall be a perfornance of those things which were told her from the Lord.

46 マリヤが曰く、「我が魂、主を大いとす。

46 And Mary said, My soul doth magnify the Lord,

47 我が魂は、我を救うの神を喜ぶ。

47 And my spirit hath rejoiced in God my Saviour.

48 彼、仕われ女の卑しきなるを顧みて、今より後、万世我を幸いある者と言う。

48 For he hath regarded the low estate of his handmaiden: for behold, from henceforth all generations shall call me blessed.

49 その威勢あるをもって、我がために大いなることをなして、その名ただ聖。

49 For he that is mighty hath done to me great things, and holy *is* his name.

50 我を恐る者は、これを憐れみて、世々に至る。

50 And his mercy is on them that fear him, from generation to generation.

51 その腕、肱をもって力を現して、奢る者はその心の浮かぶによって、これを散らす。

51 He hath shewed strength with his arm; he hath scattered the proud in the imagination of their hearts.

52 権いある者は、その位よりこれを落とす、下品の者はこれを上げる。

52 He hath put down the mighty from *their* seats, and exalted them of low degree.

53 飢える者は美味きものをもって、これを飽かす。富者はこれを空しく帰らせん。

53 He hath filled the hungry with good things, and the rich he hath sent empty away.

54 その憐れみをおぼえ出して、臣下イスラエリはこれを助ける。

54 He hath holpen his servant Israel, in remembrance of *his* mercy;

55 その昔、我が先祖に詔するがごとく、アベラハンと子孫とに世々に至る」。

55 As he spake to our fathers, to Abraham, and to his seed, for ever.

56 マリヤともに住まうこと三か月にして、而して帰る。

56 And Mary abode with her about three months, and returned to her own house.

57 イリサベが産月満つるにおよびて、息子を産む。

57 Now Elisabeth's full time came, that she should be delivered; and she brought forth a son.

58 隣の人、親戚と、主の大いに彼を憐れみたるを聞きて、同じく楽しむ。

58 And her neighbours and her cousins heard how the Lord had shewed great mercy upon her; and they rejoiced with her.

59 八日を越えて、皆嬰児を皮を切る礼するがために来りて、その父の名ザカリヤをもってこれを名付けんと欲す。

59 And it came to pass, that on the eighth day they came to circumcise the child; and they called him Zacharias, after the name of his father.

60 その母の曰く、「否、ただヨハンと名付くべし」。

60 And his mother answered and said, Not *so;* but he shall be called John.

61 皆曰く、「親戚の中、この名を付ける者なし」。

61 And they said unto her, There is none of thy kindred that is called by this name.

62 ついに、父親に招きして、「何の名を付けん」と問う。

62 And they made signs to his father, how he would have him called.
63 父、簡板を求めて書きて、「ヨハン」と言う。皆これを珍しとす。

63 And he asked for a writing-table, and wrote, saying, His name is John. And they marvelled all.
64 たちまち口開き、舌解けて、物言いて、神を讃めたり。

64 And his mouth was opened immediately, and his tongue *loosed,* and he spake, and praised God.
65 囲む隣の人、皆恐る。このこと遍くヨテヤの山国に聞こえたり。

65 And fear came on all that dwelt round about them; and all these sayings were noised abroad throughout all the hill-country of Judea,
66 聞く者皆、これを心に秘して曰く、「この童如何にとならんとするや。かつ主これを手助けにす」。

66 And all they that had heard *them,* laid them up in their hearts, saying, What manner of child shall this be? And the hand of the Lord was with him.
67 その父ザカリヤ聖神に感じて、予めに言いて、曰く、

67 And his father Zacharias was filled with the Holy Ghost, and prophesied, saying,
68 「主イスラエリが神、幸いなるかな。その民を顧みて、而してこれを買い戻す。

68 Blessed be the Lord God of Israel; for he hath visited and redeemed his people,
69 我らがために、救うの角を挙げて、その臣下ダヒデが家において。

69 And hath raised up an horn of salvation for us, in the house of his servand David:
70 世界の初めより、己が聖なる先知る者（＝預言者）どもの口をもって言いたる通り。

70 As he spake by the mouth of his holy prophets, which have been since the world began:
71 我らを救いて、敵人我らを憎む者の手より逃らしむ。

71 That we should be saved from our enemies, and from the hand of all that hate us;
72 我らが先祖に憐れみを施し、己が聖なる約束を覚え出して。

72 To perform the mercy *promised* to our fathers, and to remember his holy covenant:

73 すなわち、我ら(われ)が先祖(せんぞ)アベラハンに誓(ちか)いするところの誓(ちか)い。

73 The oath which he sware to our father Abraham;

74 いわゆる敵手(てきて)より逃(のが)らされて後(あと)、恐(おそ)るることなくして、我(われ)ら主(ぬし)に仕(つか)う奉(まつ)りて。

74 That he would grant unto us, that we being delivered out of the hands of our enemies, might serve him without fear,

75 命(いのち)を終(お)わるまで、あのお方(かた)の前(まえ)にありて、心(こころ)を粛(つつし)みて、義(ぎ)をもってせん。

75 In holiness and righteousness before him, all the days of our life.

76 汝(なんじ)も我(わ)が息子(むすこ)、はた極(ご)く高(たか)き者(もの)の先知(さきし)る者(もの)と称(とな)われんとす。主(ぬし)の面前(ぜんめん)ありて、先立(さきだ)ち行(ゆ)き、もって彼(かれ)の道(みち)を備(そな)えて。

76 And thou, child, shalt be called the prophet of the Highest: for thou shalt go before the face of the Lord to prepare his ways;

77 民(たみ)に示(しめ)して救(すく)うことを知(し)らしめん。すなわち、これを罪(つみ)を赦(ゆる)すにあり。

77 To give knowledge of salvation unto his people, by the remission of their sins,

78 我(われ)らが神(かみ)の恵(めぐ)むの心(こころ)をもってする。これにてまた暁(あかつき)、上(うえ)より我(われ)らに臨(のぞ)む。

78 Through the tender mercy of our God; whereby the Day-spring from on high hath visited us,

79 暗(くら)きに住(す)まい、死(し)する陰(かげ)におる者(もの)は、光(ひかり)をもってこれを照(て)らす。我(わ)が足(あし)を平安(へいあん)の道(みち)に導(みちび)く。

79 To give light to them that sit in darkness, and in the shadow of death, to guide our feet into the way of peace.

80 かつ、童(わらんべ)ようやく長(ちょう)じて、精神堅(せいしんかた)くして、荒(あ)れ地(ち)に住(す)まうこと、イスラエリに現(あらわ)るるの日(ひ)に至(いた)るまです。

80 And the child grew, and waxed strong in spirit, and was in the deserts till the day of his shewing unto Israel.

注

本注の内、（H1）については、筆者が琉球語を解説するだけの能力がないことに付け加え、もし、全

てを取り上げ解説したら、その量は膨大なものになってしまうこともあるので、語彙の違いを中心に語学的に興味のあるもののみを取り上げた。原文（H2）、（H2）、（W）ともに、固有名詞には、傍線が引かれている。これは、中国語で、やはり固有名詞に傍線を引くのと同じ。同じ文字ばかりを用いる場合には、何らかの方法で固有名詞を他と区別する必要が生じるためである。日本語はその後、固有名詞をカタカナで表す表記法が定着したために、傍線を引く表記方法は消えた。

1　**述べ**：（H2）「ノビ」。（H1）「ノビ」。
2　**理を教える者**：（H1）「ミチノビタイルモノ」（道述べている者）。
3　**思いて**：（H2）「ヲモヘテ」。
5　**祭司**：（H1）「マツリガミイ」（祭神/祀り上）。
5　**妻**：（H1）「トジ」（[tuzi]、刀自＝妻）。
5　**後方**：（H1）「ワイカ」（[ʔweeka]、「親類、親戚」）。「後方」は英語of the daughtersの翻訳であり、その「血筋を嗣ぐ者」という意味であろう。
6　**神**：（H1）「シヤウテイ（上帝）」。中国語では、theosを「神」と翻訳するか、「上帝」と翻訳するかで有名な論争があった。議論を単純化すると、ヨーロッパからの宣教師は「上帝」を主張し、アメリカからの宣教師は「神」を主張したことになる。ベッテルハイムは、始め「上帝」派であったように思われるが、後に「神」に移行している。その理由は明らかではない。（H2）の場合、「カミ」を太く、大きく書き、他の文字と区別している。KJVでLORDと書くのに似ている。
6　**主**：（H1）「[ʔusjuu]ウシウ（御主）」。琉球王の敬称、「国王様」の意。[ʔsjuganasiimee]（ウシュガナシーメー）「御主加那志前」の省略形。
6　**戒めと礼法**：（H1）「リツヒャウギ」（律・評議）。
6　**従いて**：（H2）「シタガツテ」（従って）。
7　**石女**（「産まず女」から）。（H1）「ウマズリ」[ʔɴmaziri]」。差別的表現。
9　**籤**：（H1、H2）「クギ」[kuzi]。[ki]⇔[tɕi]、[gi]⇔[dzi]は沖縄方言の特徴の一つ。口蓋化現象は琉球語に限らず言語の一般的な現象である。Gk. kyrke―E. church、E. garden―Fr. jardin。
9　**入りて**：（H2）「イレテ」（入れて）。
10　**外にありて**：（H2）「ホカニアツテ」（外にあって）。
11　**天つ使い**：この表現はここのみ。あとは全て「天の使い」となっている。（H1）「ウシウノツカイ」[ʔusjuunucikee]（御主の使い）。（H1）でも、以後は「テンノツカイ」。（H2）「マサシキツカイ」（正しき使い）?[masasja?]（霊験がある、霊験あらたかである）?。「霊験あらたかな使い？」。
11　**香壇**：（H1）「マツリダン」（祭壇）。
13　**天の使い**：（H2）「マサシキツカイ」（正しき使い）。
13　**曰く**：（H2）「イハタ」。「ク」の誤記。
13　**息子**：（H1）「ヲケカングワ」[ʔwikigaɴgwa]（男の子）＜【['wikiga]（男）＋ [Qkwa] クヮ（子）】。
13　**産みて**：（H2）「ウマラシテ」と琉球語表現。（H1）「ナキ」（産んで）＜【「ナスン」[nasjuɴ]（産む）】。
14　**楽しみて**：（H2）「タノシンデ」（楽しんで）。
14　**喜び楽しまん？**：（H1）「ウシヽヤシヨロコビヨン ＜【[ʔuQsjasjuɴ]（楽しむ）＋ ['jurukubuɴ]（喜ぶ）」。
15　**ありて**：（H2）「アツテ」（あって）。
15　**葡萄酒と酒**：（H2）「葡萄酒（ブドウシウ）サケト」（葡萄酒・酒と）（H1）「サケサケガス」（酒、酒粕）【[saki]＋[kaṣi(ẓee)]】。
15　**聖神**：（H1）「シイシン」（聖神）。ベッテルハイムは、Wでは、「神」は全て漢字表記を用いている。その読み方については、Wだけでは知ることができないが、（H2）によると、Godを「神（カミ）」と読

ませ、spiritを「神」（シン）」と読ませて区別している（1.17注参照）。特に聖霊を表す場合には、「聖神」を用いている。
15 **聖神に満ちて**：(H2)「聖神（セイシン）満（ミチ）テ」。
17 **神徳（しんとく）**：(W) は「神」のみ漢字表記でルビなし。「とく」は平仮名。(H1) は「シントコ」、(H2) は、神徳の漢字表記に「シントコ」のルビ。2:15注参照。
17 **先立ちて**：(H2)「サキダツテ」（先立って）。
17 **義なるものの才知**：(H1)「クンシノミチ」（君子の道）。
18 **天の使い**：(H2)「マサシキツカイ」。13注参照。
18 **言いて**：(H2)「イツテ」（言って）。
18 **如何にして**：(H2)「イカンシテ」（如何して）。
19 **天の使い**：注18参照。
19 **いまし**：「し」は強調を表す。「ちょうど今、たった今」。
19 **神の目前に立つ**：(H1)「シヤウテイノメノマヘニハンベテ」（上帝の目の前に侍べて）。
19 **喜びの音信（おとずれ）**：(H1)「エイヤウス」（良い様子？）。(H2)「ヨロコビノウトヅリ」（喜びの音信）。
20 **唖**：機能に障害があって、話すことができないこと、またそのような障害を持った人。差別的表現（H1）。
20 **信ぜざる**：(H2)「シンジザル」（信じざる）。
21 **待ちて**：(H2)「マツテ」（待って）。
21 **斯く**：(H2)「カコ」。
22 **およびて**：(H2)「ヲヨンデ」（およんで）。
22 **現れるところ**：英語のvisionか。日本語では「幻」に当たる。
24 **孕みて**：(H2)「ハラゴンデ」、(H1)「カサゲテ」【[kasagi=juɴ]（はらむ、みごもる、妊娠する）】。
25 **斯くの如し**：(H2)「カコノコトシ」（斯この如し）。
26 **天の使い**：注18参照。
26 **行きて**：(H2)「ユイテ」（行いて）。「ユイニノ」のように見えるがこれは「ニ」と「ノ」を離した誤記。
27 **臨みて**：(H2)「ノゾンテ」（臨んで）。
27 **縁組みせる**：(H2)「縁組サル」。
27 **神に感じて**：(W)「神」は漢字表記でルビなし。(H2) は、「神」と「感」が漢字表記で、それぞれ「シン」、「カン」のルビあり。(H1)「シンノトコカンズテ」（神の徳感じて）。2:15,17注参照。
27 **童女（どうぢよ）**：(H1)「ダウジヨ」（童女）、行間に「ワラビヲナゴ」とあり。
28 **天の使い**： 注18参照。
28 **進みて**：(H2)「スヽンデ」（進んで）。
29 **安んぜずして**：(H2)「ヤスンジズシテ」（安んじずして）。
29 **平安を問う**：「挨拶する」。この表現は、ヘブライ語shalomを反映していると思われる。(H2)「平安（ヒアン）」。
29 **何のゆえぞや**：本文は「なんのゑへぞや」。「なんのゆゑぞや」の誤記であろう。
30 **天の使い**：注18参照。
31 **孕みて**：(H2)「ハラゴンデ」（孕んで）。
31 **産みて**：(H2)「ウマラシテ」（産まらして）。
34 **天の使い**：注18参照。
34 **夫に適ぜず**：英語ではknowであり、さらに聖書的表現として「床をともにする、性的な交わりをする」意味であるが、日本語のこの表現は他に見当たらない。(H1) では、「ワネヤマダ子ビキサンコ

ノコトヤキヤシナヨガ」となっている。[niibici]（結婚）と関係があることは確かであろう。「私はまだ結婚していない」ということであろう。

34　**如何にして**：(H2)「イカンシテ」(如何して)。

35　**天の使い**：注18参照。

35　**上に**：(H2)「ウイニ」(上に)。

35　**これをもって**：(H2)「コヽヲモツテ」(ここをもって)。

35　**生まれんとする**：(H2)「ウマレラントスル」(生まれらんとする)。

36　**親戚（しんせき）**：(H2)「親戚（シンシキ)。

36　**称えども**：(H2)「トナフドモ」(称うども)。

38　**仕われ女**：(H2)「ツカワリヲンナ」(仕わり女)。

38　**汝言うがごとく**：本文は「なんぢふいがごとく」。「い」と「ふ」が逆。

38　**天の使い**：注18参照。

39　**出立し**：(H2)「出（シヨツ）タツシ」(出立し)。

39　**行きて**：(H2)「ユイテ」(行いて)。

40　**平安を問う**：注29参照。

41　**平安を問う**：(H2)「平安（ヒアン）ヲトウルヲ」(平安を問うるを)。注29参照。

41　**聞きて**：(H2)「キイテ」(聞いて)。

41　**胎内の子**：(H1)「ワタノウチノクワ」(腸のうちの子)。

41　**聖神に満ちたり**：(H2)「聖神ミチタリ」(聖神満ちたり)。

42　**呼びて**：(H2)「ヨンデ」(呼んで)。

43　**なんそれぞ**：「なんたることか」という意味か。(H2) も同じ。

44　**平安を問う**：(H2)「平安（ヒアン）ヲトウルヲ」(平安を問うるを)。注29参照。

44　**喜びて**：(H2)「ヨロコンデ」(喜んで)。

45　**応ずる**：「応えられる、必ず実現する」。(H1)「シルシナヨン」。「ナヨン」は「成る」。

46　**我が魂**：(W) はいずれも「我が魂」。(H1) は、46節「ワタマシ」(我が魂)、47節は訳されていない。となっている。

47　**我が魂**：(H2)「ワガマサシキ」(我が正しき)。誤訳か？

48　**仕われ女**：(H2)「ツカワリヲンナ」(仕わり女)。

50　**憐れみて**：(H2)「アワレンデ」(憐れんで)。

51　**腕、かいな**：同じ意味の語が重複している。(H1)「ウデ」(腕)。

51　**心の浮かぶ**：(H2)「キモノヲカブ」(肝の浮かぶ)。

52　**下品**：「勢いあるもの」、すなわち権力を持った者に対して、地位の低い下層の者。(H1)「ヒクサルミブン」(低い身分)。

53　**飢える者**：(H1)「ヤシヤシヲルモノ」【['jaasaɴ]（ひもじい、空腹である)】。

54　**おぼえ**：(H2)「ウボヱ」(憶え)。

55　**先祖**：(H1)「ハアホジ」[ʔujahuzi]？（親、先祖)。

55　**詔する**：(H2)「メコトノリ」(詔ス)

55　**子孫**：(H1)「クワマカ」(子孫）＜【Qkwa（子）＋ʔɴmaga（孫)]。

57　**およびて**：(H2)「ヲオンデ」(およんで)。

57　**産む**：(H2)「ウマラス」(産まらす)。

58　**親戚（しんせき）**：(H2)「親戚（シンシキ)」。

58　**聞きて**：(H2)「キイテ」(聞いて)。

58　**同じく**：(H2)「ウナジク」(同じく)。

58　**憐れみ**：本文は「いはれみ」。「あはれみ」の誤記と思われる。

59　**皮を切る礼**：「割礼」。イスラエルの男子は、生後8日目に、割礼を行うことが定められていた。
60　**母**：(H1)「ヲナゴノヲヤ」(女親)。
61　**親戚の中・・・**：イスラエルでは親の名前を取るのが一般的であった。また、親の名前を取って、「バル・・」(・・の息子）のような名前がしばしば付けられた。(H2)「親戚（シンシキ)」。
62　**父親**：(H1)「ヲケガノヲヤ」(男親)。
63　**簡板**：「昔、文字を書き記すのに用いた板」『新潮』。(H1)「スミカキヤイルカンバン」(墨書き‥)。
63　**珍しとす**：(H1)「ヒルマシヤタン」＞【[hwirumasjaɴ]（不思議である、怪しむ)】。
64　**物言いて**：(H2)「モノイツテ」(物言って)。
65　**皆**：(H1)「ソヲヤウ」(総様＝皆、全員)。
65　**聞こえたり**：(H2)「キクヘタリ」(聞くえたり)。
66　**心に**：(H2)「キモニ」(肝に)。
66　**童**：ここでは「わらんべ」と読む。古い読み方。(H1)「ワラビ」。
66　**如何にと**：(H2)「イカント」(如何と)。
67　**言いて**：(H2)「イツテ」(言って)。
70　**先知る者**：「預言者」。この表現は少しずつ形を変えて、いろいろな翻訳で用いられている。(H1)ここでは、「シイジン」(聖人)。「サチシルモン」(先知る者）という表現も使われている。W.S.ウィリアムズも「セイジン」に「聖人」と「聖神」と区別している。
71　**救いて**：(H2)「スクテ」(救って)。「スクツテ」の誤記か。
72　**覚え**：(H2)「ウボヱ」(覚え)。
73　**先祖アベラハン**：イスラエル人の祖アブラハム。神とアブラハムとの約束。
74　**いわゆる**：(H2)「イワヨル」(いわよる)。
74　**恐るることなくして**：(H2)「ヲソルコトナフシテ」。「フ」は恐らく「ク」の誤記。(H1)「コヽロヤスンズテ」(心安んじて)。
74　**仕う奉りて**：(H2)「ツカウマツテ」(仕う奉って)。恐らく「マツツテ」の誤記。
75　**命を終わる**：(H2)「命（メ）ヲヲワル」(命（めい）を終わる)。
75　**あのお方の**：(H2)「カレガ」(彼が)。
75　**ありて**：(H2)「アツテ」(あって)。
75　**粛みて**：(H2)「ツツシンデ」(つつしんで)。
76　**面前ありて**：(H2)「面前アツテ」(面前あって)。
76　**彼の道を**：(H2)「カレガミチヲ」(彼が道を)。
78　**上より**：(H2)「ウイヨリ」(上より)。
79　**住まい**：(H2)「スマヘ」(住まえ)。
79　**平安（ヘイアン)**：(H2)「平安（ヒアン)」。
80　**長じて**：(H2)「長（キヤウ）ジテ」(長じて)。
80　**精神**：(H2)「マサシキ」(正しき)。

一章では、(W）と異なる（H2）を全て取り上げた。そのほとんどは、(H2）の口語的表現を（W）では文語的表現に改めているものが多い。また、琉球語の表現が残っているものも（H2）にはしばしば見られる。それは、発音上の違いから生ずるものであったり、表現そのものが違っているものも少数ではあるが見られた。二章以後は、琉球方言など、特別の場合を除いては取り上げない。

第二章

1 ¶その時、カエサレ・アヲグスト、天下に詔して、人々札に名を書き記せよと。

1 And it came to pass in those days, that there went out a decree from Casar Augustus, that all the world should be taxed.

2 かの札に書き記すは、ケリネヨ、スレヤの奉行たる時、初めて行わる。

2 (And this taxing was first made when Cyrenius was governor of Syria.)

3 皆、名を書き記すに行きて、おのおの本村に帰る。

3 And all went to be taxed, every one into his own city.

4 ヨセフもまたダビデが一族の分かりたるによって、ガリリのナザレの村に去りて、ヨテヤに至りて、ダヒデが村に来る —— 名はベレヘン。

4 And Joseph also went up from Galilee, out of the city of Nazareth, into Judea, unto the city of David, which is called Bethlehem; (because he was of the house and lineage of David)

5 縁組みせらる妻とともに名書き記されんと。時にマリヤ孕む。

5 To be taxed with Mary his espoused wife, being great with child.

6 たまたまかしこにおる時、産月すでに満つるにおよびて、

6 And so it was, that while they were there, the days were accomplished that she should be delivered.

7 ついに冢子を産み、包むに巻く布をもってして、宿屋の空き間なきによって、馬の飯米皿（＝食器）にこれを置きたり。

7 And she brought forth her first-born son, and wrapped him in swaddling clothes, and laid him in a manger; because there was no room for them in the inn.

8 その地方飼い人あり。夜は群がり、羊を野に番し守る。

8 And there were in the same country shepherds abiding in the field, keeping watch over their flock by night.

9 たちまちに主の天の使い、これらに降りて、主の栄華囲み照る。飼い人は大いに驚く。

9 And lo, the angel of the Lord came upon them, and the glory of the Lord shone round about them; and they were sore afraid.

10 天の使いの曰く、「驚くことなかれ。我汝らに宜しき音信を告げるは、諸々の民に大いなる喜びに係るものなり。

10 And the angel said unto them, Fear not: for behold, I bring you good tidings of great joy, which shall be to all people.

11 今日、ダヒデが村にありて、汝らがために救う主クレスト生まれたり。

11 For unto you is born this day, in the city of David a Saviour, which is Christ the Lord.

12 汝らまさに嬰児巻く布にて包まれて、馬の飯米皿に置くことを見るは、これそのことの標なり」。

12 And this *shall* be a sign unto you; Ye shall find the babe wrapped in swaddling clothes, lying in a manger.

13 俄に天の戦多きことありて、その天の使いとともに神を讃めて曰く、

13 And suddenly there was with the angel a multitude of the heavenly host praising God, and saying,

14「至りて上は栄光、神に帰れよ、地においては太平、人へは恩沢」。

14 Glory to God in the highest, and on earth peace, good will towards men.

15 天の使いども、天に昇りて去る後、飼い人相告げて曰く、「我らまずベレヘンに行きて、かの主我らに成りたりとの示し給うのことを見る」。

15 And it came to pass, as the angels were gone away from them into heaven, the shepherds said one to another, Let us now go even unto Bethlehem, and see this thing which is come to pass, which the Lord hath made known unto us.

16 急ぎ行きて、マリヤとヨセフと嬰児は、はたして馬の飯米皿に置くことを見る。

16 And they came with haste, and found Mary and Joseph, and the babe lying in a manger.

17 すでに見て、すなわちこの嬰児につきて、言われたる言葉を遍く知らしむ。

17 And when they had seen *it,* they made known abroad the saying which was told them concerning this child.

18 聞く者は皆飼い人に言われたることにつきて、珍したり。

18 And all they that heard *it* wondered at those things which were told them by

the shepherds.

19 マリヤはこの言葉をもって存して返す返す心に思う。

19 But Mary kept all these things, and pondered *them* in her heart.

20 飼い者は見聞くところは悉く言われたる通りたるによって、神を栄光輝かして讃めたり。而して帰る。

20 And the shepherds returned, glorifying and praising God for all thle things that they had heard and seen, as it was told unto them.

21 八日すでに満つる嬰児を皮切る礼して、名はヱソと呼ばう。すなわち未だ孕まざる時、天の使い名付けられたる通り。

21 And when eight days were accomplished for the cicumcising of the child, his name was called JESUS, which was so named of the angel before he was conceived in the womb.

22 その綺麗する日（＝浄めの日）、モセが法のとおり、すでに満てば、嬰児を抱きてヱルサレンに上りて、これを主に献ず。

22 And when the days of her purification, according to the law of Moses, were accomplished, they brought him to Jerusalem, to present *him* to the Lord;

23 主の法に書き記すがごとく、およそ初め胎の男子必ず主の聖なる者と言う。

23 (As it is written in the law of the Lord, Every male that openeth the womb shall be called holy to the Lord)

24 また、山鳩一対あるいは家鳩の子二つ、祭に献ずること、悉く主の法に言うがごとし。

24 And to offer a sacrifice according to that which is said in the law of the Lord, A pair of turtle-doves, or two young pigeons.

25 ヱルサレンに人ありて —— 名はスモン、その人義ありて、かつ虔み、元よりイスラヱリが慰めらるを待つ。聖神もまたこれに臨む。

25 And behold, there was a man in Jerusalem, whose name *was* Simeon; and the same man *was* just and devout, waiting for the consolation of Israel: and the Holy Ghost was upon him.

26 聖神より彼に表されて、未だ死するにおよばずして、必ず主のクレストを見る。

26 And it was revealed unto him by the Holy Ghost, that he should not see death, before he had seen the Lord's Christ.
27 この時、神に感じて、寺に進む。たまたまヱソの父母は子を抱きて入りて、法に従いて、彼のために行わんと欲せば、

27 And he came by the spirit into the temple: and when the parents brought in the child Jesus, to do for him after the custom of the law,
28 スモンその子を抱きて、神を祝い、誉めて曰く、

28 Then took he him up in his arms, and blessed God, and said,
29「今主の言うがごとく、僕を安んじて行かしめ給え。

29 Lord, now lettest thou thy servant depart in peace, according to thy word:
30 我が目、救う者を見たるによって。すなわち、

30 For mine eyes have seen thy salvation,
31 汝の万民の面前に備えたるを、

31 Which thou hast prepared before the face of all people;
32 光、外の類いども（＝異邦人）に照りて、汝のイスラヱリ民の栄光とするものなり」。

32 A light to lighten the Gentiles, and the glory of thy people Israel.
33 ヨセフとヱソの母と彼につきて言わるることを珍しとす。

33 And Joseph and his mother marvelled at those things which were spoken of him.
34 スモン彼らを祝いて、ヱソの母マリヤに言いて曰く、「見よかな、この子立てられて、イスラヱリ民の多く倒れ起こるに係りて、断るの的とし、

34 And Simeon blessed them, and said unto Mary his mother, Behold, this *child* is set for the fall and rising again of many in Israel; and for a sign which shall be spoken against;
35 多くの人の思いを現し、汝の心をも刀にて刺して、退くがごとくにす。

35 (Yea, a sword shall pierce through thy own sould also) that the thoughts of many hearts may be revealed.
36 アンナ女ありて、アセ枝流れ、フワノリが娘、先知る者なり。年甚だ老いたり。嫁するころより、夫とともにすること七年。

36 And there was one Anna a prophetess, the daughter of Phanuel, of the tribe of Aser: she was of a great age, and had lived with an husband seven years from her virginity;

37 寡婦となりて、八十余年、寺より離れず、食い止めて（＝断食して）、祈りて、昼夜神に仕うまつる。

37 And she *was* a widow of about fourscore and four years, which departed not from the temple, but served *God* with fastings and prayers night and day.

38 その時、前に進みて、主にありがたくす。エルサレンのうちに買い戻すことを望む者ども、この子を相論ず。

38 And she coming in that instant, gave thanks likewise unto the Lord, and spake of him to all them that looked for redemption to Jerusalem.

39 エソの父母、主の法のとおり、悉く行いてより、故郷ガリリのナザレに帰る。

39 And when they had performed all things according to the law of the Lord, they returned into Galilee, to their own city Nazareth.

40 童だんだんに長じて、魂堅くして、才知に満ちて、神の恩を被る。

40 And the child grew, and waxed strong in spirit, filled with wisdom; and the grace of God was upon him.

41 毎年、過越ゆる節句（＝過越の祭）に、その親エルサレンに上りて、

41 Now his parents went to Jerusalem every year at the feast of the passover.

42 エソ年十二て、この節句の例に従いて皆エルサレンに上る。

42 And when he was twelve years old, they went up to Jerusalem, after the custom of the feast.

43 限り（＝期限）満てて、而して、帰る時、その子エソはなおエルサレンに留まる。その母とヨセフと知らず。

43 And when they had fulfilled the days, as they returned, the child Jesus tarried behind in Jerusalem; and Joseph and his mother knew not *of it.*

44 必ず連れ人のうちにあると思う。一日の道を行くにおよびて、いまし親戚・朋友のうちに尋ね問う。

44 But they supposing him to have been in the company, went a day's journey; and they sought him among *their* kinsfolk and among *their* acquaintance.

45 会わずして、すなわち、ヱルサレンに帰りて、これを尋ぬ。

45 And when they found him not, they turned back again to Jerusalem, seeking him.

46 三日後、寺に会う。先生のうちに座しし、かつ聞き、かつ問う。

46 And it came to pass, that after three days they found him in the temple, sitting in the midst of the doctors, both hearing them, and asking th em questions.

47 聞く者皆、彼の聡明答えを能くすることを珍しとす。

47 And all that heard him were astonished at his understanding the answers.

48 両親見て、而して、これを怪しむ。その母の曰く、「我が子、何ぞ我らをして、斯くの如くならしむるや。見よかな、汝が父と我と憂うる心して、汝を尋ぬ」。

48 And when they saw him, they were amazed: and his mother said unto him, Son, why hast thou thus dealt with us? behold, thy father and I have sought thee sorrowing.

49 ヱソの曰く、「何ぞ我を尋ねることをせん。豈、我父のところにあるべきことを知らざらんや」。

49 And he said unto them, How is it that ye sought me? wist ye not that I must be about my Father's business?

50 両親彼の言いたることを悟らず。

50 And they understood not the saying which he spake unto them.

51 ヱソともに下りて、ナザレに至りて、父母に承け従う。その母諸々このことをもって、心に留める。

51 And he went down with them, and came to Nazareth, and was subject unto them: but his mother kept all these sayings in her heart.

52 ヱソ、才知と年ほどと日々に増し、神と人とますますこれを愛す。

52 And Jesus increased in wisdom and stature, and in favour with God and man.

1 **カエサレ・アオグスト**：（H1）「アヲグストクワウテイ（＝アオグスト皇帝）」。

1 **詔して**：(H1)「ムネノクダテ（＝旨の下って）」。

2 **スリヤの奉行**：(H1)「スリヤチカタノカシラツカサ（＝スリヤ地方の頭司）」。

2 **本村**：(H1)「ドウノムラ（胴？の村）」。

7 **冢子（ちやうし）**：(H2)「キヤウシ」。[ki]と[tɕi]の混同は沖縄方言の特徴の一つ。[ki]が口蓋化して、

[tɕi]となるのは、ごく一般的な現象である。沖縄を「ウチナー」、「琉球」を「ルーチュー」というのも同じ。ミャンマーのAung San Suu Kyi氏は日本語では「アウン・サン・スー・チー」と呼ばれていることは周知のことである。(H1)「ヲケカングワ」[ʔwikiganɡwa]（男の子）【['wikiga]（男）＋ [Qkwa]クヮ（子）】。1:13注参照。

7　**巻く布**：(H1)「マキチンシ」（巻き衣)。「チン（衣)」「マキギンシ」は、「巻き」＋「チン」（衣（きぬ)）のことであろう。「チン」（衣類、着物も洋服も含む）『内間』。

8　**夜は**：原文は「夜はは」と誤記。

8　**野に**：(H2、H1)「ハルニ」(原に)。

11　**馬（むま）**：「うま」、「うめ」などのように、[u] ＋「マ行」は、日本語でも以前はしばしば [m] と発音された。「むま」、「むめ」とも表記された。

11　**飯米皿**：(H1）は「ハンマイザラ」。「飯米」はそもそも食用の米のことであるが、沖縄方言では、米だけでなく、食用の芋などもそう呼ぶ（内間『ハンメー』)。また、「鳥などの餌」のことも意味するので、「ムマノハンマイザラ」「馬の餌の皿」ということで、「飼い葉桶」を意味する。「ハンメ（ー)」は訛り。

11　**生まれたり**：(H2)「ウマラサレタリ」(産まらされたり)。

15　**生（な）りたり**：沖縄方言。英語から考え、「成る」とも考えられる。1:13注参照。

19　**存して**：「信じて」の意か。ギュツラフではそのように使われている。

22　**抱（いだ）きて**：(H2)「ダキテ」(抱きて)。

23　**初め胎の男子**：(W）男子のみ漢字表記でルビなし。(H2)「ハジメハラノ男子」と男子のみ漢字表記で「ナンシ」のルビあり。(H1)「クワブクロアケケルヲモン」(子袋開けける男者？)。

31　**孕ごむ**：(H1)「カサゲテ」[kasagi=juɴ]（はらむ、みごもる、妊娠する)。

32　**外の類いども**：(H1)「カワトウルタグリ」(変わっている類い？)。

32　**汝のイスラエリ民**：(H2)「ナンヂガイスラヱリガタミ」(汝がイスラエリ民)、(H1)「ウンジウノタミイスラヱリ」。「ʔuɴzu]ウンジュウ（御胴)」は、目上に対する二人称（あなたさま)。

36　**先知る者**：預言者の意。(H1)「サチシルモン」(先知る者)。「サチ」(先)。

37　**寡婦**：(H1)「ヤグサミ」(寡婦)。

37　**食い止め**：(H1)「シヤウジンシ」(精進し)。精進料理と関係があるか。

37　**祈りて**：(H2)「イノリイノリテ」(祈り、祈りて)。

38　**ありがたくす**：(H2)「アリガタフス」(ありがとうす)。あるいは、「フ」は「ク」の誤記。

40　**だんだん長じて、魂堅くして**：(H2)「漸々（ジンジン）長（キヤウ）じて、マサシキカタクシテ」漸々長じて、正しき)。漸々は、「徐々に進む様」を表す。

40　**被る**：(H2)「カウフル」(被〔こうぶ〕る)。

41　**過ぎ越ゆる節句**：(H1）は「ハヒコセセツ（這い越せ節)」

42　**年十にて、この節句の例・・・**：(H2)「トシジウニノコル節供ノゾク・・」(年十二の頃、節句の例・・)。この部分（W）の誤記とも考えられる。

45　**会わずして**：(H2)「アフラズシテ」(会うらずして)。誤記か。

46　**先生**：(H1）は「シシヨウスルサムライ」(師匠する侍？)。

48　**両親（ふたおや）**：(H2)「両（ラウ）ヲヤ」(両〔りょう〕親)。

48　**憂うる心**：(H1）は「シワシ」(世話し)。沖縄方言で「心配、気掛かり」の意。

51　**承け従う**：(H1）は「カウカウシ」(孝行し)。

第三章

1 カヱサレ・テベリウ、位におるの十五年、ポンテウ・ピラト、ヨテヤの奉行たり。ヘロデはガリリの封候、その兄弟ヒリピイはイトリヤとテラコネテ地方との封候、リサネヤはアベリネの封候、

1 ¶Now in the fifteenth year of the reign of Tiberius Cæsar, Pontius Pilate being governor of Judea, and Herod being tetrarch of Galilee, and his brother Philip tetrarch of Iturea and of the region of Trachonitis, and Lysanias the tetrarch of Abilene,

2 アンナとカヤフハとは大祭司たるとき、神の言葉ザカリヤが息子ヨハンに荒れ地にありて降る。

2 Annas and Caiaphas being the high priests, the word of God came unto John the son of Zacharias in the wilderness.

3 いまし、ヨヱレタンの囲み地方に来りて、悔やみ改めの洗う礼を伝うは、罪を赦すのため。

3 And he came into all the country about Jordan, preaching the baptism of repentance, for the remission of sins;

4 先知るイサヤが書物に書き記すのごとく曰く、「荒れ地にありて呼ばう者の声に曰く、『主の道を備えて、その小路を直きにせよ。

4 As it is written in the book of the words of Esaias the prophet, saying, The voice of one crying in the wilderness, Prepare ye the way of the Lord, make his paths straight.

5 谷ごと必ず満たされ、山ごと、森ごと低きにし、屈み曲がる（道）真っ直ぐ成し、嶮岨の道平らか均されん。

5 Every valley shall be filled, and every moutain and hill shall be brought low; and the crooked shall be made straight, and the rough ways shall be made smooth;

6 およそ、肉ある者は、神の救いを見らんとす』と」。

6 And all flesh shall see the salvation of God.

7 皆出て、洗う礼を受けらんとす。ヨハンの曰く、「毒蛇の類か、誰か汝らに示して、来らんとするの怒りを避けらしめたるや。

7 Then said he to the multitude that came forth to be baptized of him, O generation of vipers, who hath warned you to flee from the wrath to come?

8 ゆえに、悔やみに応じたる果物を結ばせよ。自ら、アベラハン我らが先祖たると思うことなかれ。我汝らに告げん、神能くこの石を起こして、アベラハンが子孫となさしむ。

8 Bring forth therefore fruits worthy of repentance, and begin not to say within yourselves, We have Abraham to *our* father: for I say unto you, That God is able of these stones to raise up children unto Abraham.

9 今も斧は植木の根に置く。植木ごと良き果物を結ばざるものは、すなわちこれを切りて火に投げる」。

9 And now also the ax is laid unto the root of the trees: every tree therefore which bringeth not forth good fruit, is hewn down, and cast into the fire.

10 皆問いて曰く、「しからば、我ら何をなすべきや」。

10 And the people asked him, saying, What shall we do then?

11 曰く、二つの衣ある者は、すなわち衣なき者に分かち、糧ある者は、また斯くの如くにせよ。

11 He answereth and saith unto them, He that hath two coats, let him impart to him that hath none; and he that hath meat, let him do likewise.

12 貢ぎ役人も来りて、洗う礼せられんとす。問いて曰く、「先生、我ら何をすべきにや」。

12 Then came also publicans to be baptized, and said unto him, Master, what shall we do?

13 曰く。「定めの他は催促（する）ことなかれ」。

13 And he said unto them, Exact no more than that which is appointed you.

13 兵もまた問いて曰く、「我ら何をすべきにや」。曰く、「強いて人に行うことなかれ。偽りて、人を訴えすることなかれ。あるところの賃金にて足れよ」。

14 And the soldiers likewise demanded of him, sayhing, And what shall we do? And he said unto them, Do violence to no man, neither accuse *any* falsly, and be content with your wages.

15 民皆クレストを臨み待ちて、心にヨハンこれぞや否やを伺う時は、

15 And as the people were in expectation, and all *men* mused in their hearts of John, whether he were the Christ, or not;
16 ヨハンが諸々に言いて曰く、「我は水にて汝らを洗う礼す。ただ我より勢い優る者来りて、その靴の緒を解くにも、我当たらず。彼まさに聖神にて、火にて汝らを洗う礼す。

16 John answered, saying unto them all, I indeed baptize you with water; but one mightier than I cometh, the latchet of whose shoes I am not worthy to unloose: he shall baptize you with the Holy Ghost, and with fire:
17 彼の手に箕ありて、その庭を清めて、麦を拾いて倉に入れて、ただ糠を消されざるの火に焼く」。

17 Whose fan *is* in his hand, and he will throughly purge his floor, and will gather the wheat into his garner, but the chaff he will burn with fire unquenchable.
18 ヨハンまた別多きはしをもって勧みて、喜び音信をもって民に向かう。

18 And many other things in *his* exhortation preached he unto the people.
19 ただ封候ヘロデ兄弟ヒリピイが妻ヘロデヤがこと、および別に無道するのゆえに、ヨハンに責められて、

19 But Herod the tetrarch, being reproved by him for Herodias his brother Philip's wife, and for all the evils which Herod had done,
20 諸々の上、またこの暴悪を据えて、ヨハンを牢屋に込める。

20 Added yet this above all, that he shut up John in prison.
21 諸々の民洗う礼を受けるの後、たまたまヱソも洗う礼せられて、祈る時、天開き、

21 Now when all the people were baptized, it came to pass, that Jesus also being baptized, and praying, the heaven was opened,
22 聖神、彼の上に臨むは、姿鳩のごとくにして、天より声ありて曰く、「汝いまし我が愛するの息子。我が喜び喜ぶところの者なり」。

22 And the Holy Ghost descended in a bodily shape like a dove upon him, and a voice came from heaven, which said, Thou art my beloved Son; in thee I am well pleased.
23 ヱソ年今始め三十年、人思えらくは、ヨセフが息子たると。彼はヘリイが、

23 And Jesus himself began to be about thirty years of age, being (as was supposed) the son of Joseph, which was *the son* of Heli,
24 彼(かれ)はマタットが、彼(かれ)はレヒイが、彼(かれ)はメケイが、彼(かれ)はヤンナアが、彼(かれ)はヨセフが、
24 Which was *the son* of Matthat, which was *the son* of Levi, which was *the son* of Melchi, which was *the son* of Janna, which was *the son* of Joseph,
25 彼(かれ)はマタテヤアが、彼(かれ)はアモスが、彼(かれ)はナヲンが、彼(かれ)はエゾリが、彼(かれ)はナガイが、
25 Which was *the son* of Mattathias, which was *the son* of Amos, which was *the son* of Naum, which was *the son* of Esli, which was *the son* of Nagge,
26 彼(かれ)はマアトが、彼(かれ)はマタテヤアが、彼(かれ)はセマエが、彼(かれ)はヨセフが、彼(かれ)はヨダアが、
26 Which was *the son* of Maath, which was *the son* of Mattathias, which was *the son* of Semei, which was *the son* of Joseph, which was *the son* of Juda,
27 彼(かれ)はヨアンナが、彼(かれ)はレサが、彼(かれ)はゾロバベが、彼(かれ)はサラテリが、彼(かれ)はネレイが、
27 Which was *the son* of Joanna, which was *the son* of Rhesa, which was *the son* of Zorobabel, which was *the son* of Salathiel, which was *the son* of Neri,
28 彼(かれ)はメケが、彼(かれ)はアサが、彼(かれ)はコサンが、彼(かれ)はエモダンが、彼(かれ)はエロが、
28 Which was *the son* of Melchi, which was *the son* of Addi, which was *the son* of Cosam, which was *the son* of Elmodam, which was *the son* of Er,
29 彼(かれ)はヨセが、彼(かれ)はエリズロが、彼(かれ)はヨレンが、彼(かれ)はマタットが、彼(かれ)はレヒイが、
29 Which was *the son* of Jose, which was *the son* of Eliezer, which was *the son* of Jorim, which was *the son* of Matthat, which was *the son* of Levi,
30 彼(かれ)はスモンが、彼(かれ)はヨダアが、彼(かれ)はヨセフが、彼(かれ)はヨナンが、彼(かれ)はエリヤケンが、
30 Which was *the son* of Simeon, which was *the son* of Juda, which was *the son* of Joseph, which was *the son* of Jonan, which was *the son* of Eliakim,
31 彼(かれ)はメレアが、彼(かれ)はメナンが、彼(かれ)はマタタが、彼(かれ)はナタンが、

31 Which was *the son* of Melea, which was *the son* of Menan, which was *the son* of Mattatha, which was *the son* of Nathan, which was *the son* of David,

32 彼はダヒデが、彼はヱセが、彼はオベデが、彼はボオズが、彼はサンモンが、彼はナアソンが、

32 Which was *the son* of Jesse, which was *the son* of Obed, which was *the son* of Booz, which was *the son* of Salmon, which was *the son* of Naasson,

33 彼はアミナダが、彼はアランが、彼はヱゾロンが、彼はハレソが、彼はヨダアが、

33 Which was *the son* of Aminadab, which was *the son* of Aram, which was *the son* of Esrom, which was *the son* of Phares, which was *the son* of Juda,

34 彼はヤコベが、彼はイサケが、彼はアベラハンが、彼はタラアが、彼はナホロが、

34 Which ws *the son* of Jacob, which was *the son* of Isaac, which was *the son* of Abraham, which was *the son* of Thara, which was *the son* of Nachor,

35 彼はサルが、彼はラガヲが、彼はハレケが、彼はヘベロが、彼はサラが、

35 Which was *the son* of Saruch, which was *the son* of Ragau, which was *the son* of Phalec, which was *the son* of Heber, which was *the son* of Sala,

36 彼はカイナンが、彼はアバサデが、彼はセンが、彼はノアアが、彼はラメが、

36 Which was *the son* of Cainan, which was *the son* of Arphaxad, which was *the son* of Sem, which was *the son* of Noe, which was *the son* of Lamech,

37 彼はメトサラが、彼はヱノケが、彼はヤレデが、彼はマレリイが、彼はカイナンが、

37 Which was *the son* of Mathusala, which was *the son* of Enoch, which was *the son* of Jared, which was *the son* of Maleleel, which was *the son* of Cainan,

38 彼はヱノセが、彼はセテが、彼はアダンが、彼は神の息子たる。

38 Which was *the son* of Enos, which was *the son* of Seth, which was *the son* of Adam, which was *the son* of God.

1 **奉行**：(H1)「カシラツカサ」(頭司)。

1 **封候**：(H1)「キミ」(君)。

2　**大祭司**：(H1)「マツリガミイノタイシヤウ」(祭神の大将)。
3　**いまし**：「たった今」「今という今」など強調の意。
5　**嶮岨**：「山などがけわしいこと、また、けわしい場所」。
8　**果物**：(H1)「ナヱモン」[naimuɴ]（生り物)。
11　**衣**：(H1)「キン」「キン、キヌー〔衣〕」[ci?]（着物)。
12　**貢ぎ役人**：(H1)「ジヤウナウガミイ」(上納上)。
14　**あるところ**：(H2)「エルトコロ」(得るところ)。
14　**賃金**：(H1)「テマハンマイ」(手間飯米)。給料を飯米で支給したものであろう。ローマ兵が「塩」(sal）を支給されたのと似ている。
15　**伺う**：(H2)「ウタガフ」(疑う)。
16　**靴**：(H1)「サバ」[saba]（草履)。
17　**消されざるの**：(H2)「ケシザルノ」(消しざるの？)。「ケシサルノ」(消し去るの）とも読める。
18　**多きはしももって**：意味不明。

第四章

1 ヱソ、聖神(せいしん)に感(かん)じて、ヨヱレタンより帰(かえ)りて、神(しん)に導(みちび)かれて、荒(あ)れ地(ち)に至(いた)り給(たも)う。

1 ¶And Jesus being full of the Holy Ghost returned from Jordan, and was led by the spirit into the wilderness,

2 鬼(おに)に、試(こころ)みらる。四十日食(しじゅうにちしょく)せず、すでにし、而(しこう)して飢(う)える。

2 Being forty days tempted of the devil. And in those days he did eat nothing: and when they were ended, he afterward hungered.

3 鬼(おに)の曰(いわ)く、「汝(なんじ)もし神(かみ)の息子(むすこ)ならば、この石(いし)に言(い)い付(つ)けて、餅(もち)になす」。

3 And the devil said unto him, If thou be the Son of God, command this stone that it be made bread.

4 ヱソの言(い)い給(たま)わく、「書(か)き記(しる)すにこれあり、『人(ひと)はただ餅(もち)のみにて生(い)きらず、いまし神(かみ)のおのおの言葉(ことば)をもってす』」。

4 And Jesus answered him, saying, It is written, That man shall not live by bread alone, but by every word of God.

5 鬼(おに)はこれを引(ひ)きて、高山(たかざん)に登(のぼ)りて、しばらくの間(あいだ)、天下(てんか)の諸々(もろもろ)の国(くに)を彼(かれ)に見(み)せしめて、

5 And the devil taking him up into an high mountain, shewed unto him all the kingdoms of the world in a moment of time.

6 曰く、「皆この勢いと栄華とを我汝に与わんとす。蓋し、これ我に授けられて、欲するのまま、誰にも与う。

6 And the devil said unto him, All this power will I give thee, and the glory of them: for that is delivered unto me, and to whomsoever I will, I give it.

7 汝、我を拝せば、皆汝がものなり」。

7 If thou therefore wilt worship me, all shall be thine.

8 ヱソの言い給わく、「サタン、退けよ。書き記すにこれあり、『主、汝が神を拝して、一人これに尊び、仕う奉れよ』」。

8 And Jesus answered and said unto him, Get thee behind me, Satan: for it is written, Thou shalt worship the Lord thy God, and him only shalt thou serve.

9 また引きて、ヱルサレンに至りて、寺の頂きにこれを登して、曰く、「汝、神の息子ならば、己を投げ落とすべし。

9 And he brought him to Jerusalem, and set him on a pinnacle of the temple, and said unto him, If thou be the Son of God, cast thyself down from hence.

10 書き記すにこれあり、『彼必ず、その天の使いに命じて、汝を守りて、

10 For it is written, He shall give his angels charge over thee, to keep thee:

11 手にて汝を引っさげて、足いつも石に蹴ることを免らしむ』」。

11 And in *their* hands they shall bear thee up, lest at any time thou dash thy foot against a stone.

12 ヱソの言い給わく、「書き記すにこれあり、『主汝が神を試むことなかれ』」。

12 And Jesus answering said unto him, It is said, Thou shalt not tempt the Lord thy God.

13 鬼は試むこと皆終わりて、しばらくこれを離る。

13 And when the devil had ended all the temptation, he departed from him for a season.

14 ヱソ聖神の徳に感じて、ガリリに帰り給う。名誉れ遍く囲み地方に溢る。

14 ¶And Jesus returned in the power of the spirit into Galilee: and there went out a fame of him through all the region round about.

15 寄合屋にありて、教えば、諸々に輝かさる。

15 And he taught in their synagogues, being glorified of all.

16 ついに、ナザレ――若かりし時、養わるるの所――に行いて、憩う日において、己がなりふりの通り、寄合屋に入り給う。立って、而して読み給う。

16 ¶And he came to Nazareth, where he had been brought up: and, as his custom was, he went into the synagogue on the sabbath-day, and stood up for to read.

17 先知るイサヤが書物をもって、これに与うることあり。文を開きて、その書きたるところを見て言い給わく、

17 And there was delivered unto him the book of the prophet Esaias. And when he had opened the book, he found the place where it was written,

18 「主の魂、我に臨みて、我を油して、貧しき者に喜びの音信を伝え、肝痛む者を治し、

18 The spirit of the Lord *is* upon me, because he hath anointed me to preach the gospel to the poor; he hath sent me to heal the broken-hearted, to preach deliverance to the captives, and recovering of sight to the blind, to set at liberty them that are bruised.

19 囚われどもに赦され、盲人どもに明らか、傷負う者に緩きとなることを得るを告げ、もって主の喜びの年を宣らしむ」。

19 To preach the acceptable year of the Lord.

20 ヱソ文を圧いて、仕われ者に取らして、而して、座し給う。寄合屋におる者皆、目を留めてこれを見る。

20 And he closed the book, and he gave *it* again to the minister, and sat down. And the eyes of all them that were in the synagogue were fastened on him.

21 ヱソ言い給わく、「汝らこの経を聞くは、今日証あり」。

21 And he began to say unto them, This day is this scripture fulfilled in your ears.

22 皆彼のために証拠し、その口より出ずるの宝言葉を珍しとして曰く、「これヨセフが息子にあらざるや」。

22 And all bare him witness, and wondered at the gracious words which proceeded out of his mouth. And they said, Is not this Joseph's son?

23 ヱソの言い給わく、「汝らはたして、諺を引きて、我に、『医者、己を治し』、『我ら、汝カベナヲンに行いたるを聞きたるは、また故郷にこれを行えよ』と言わんとす。

23 And he said unto them, Ye will surely say unto me this proverb, Physician, heal thyself: whatsoever we have heard done in Capernaum, do also here in thy country.
24 我真実に汝らに告げん、未だ先知る者故郷にありて重んぜらる者あらず。

24 And he said, Verily I say unto you, No prophet is accepted in his own country.
25 我真実に汝らに告げん、昔イリヤが時、天閉じらること三年六か月ありて、遍く国大いに飢饉す。イザラヱリのうち寡婦多かれども、

25 But I tell you of a truth, many widows were in Israel in the days of Elias, when the heaven was shut up three years and six months, when great famine was throughout all the land;
26 イリヤ彼らがうちに誰にも遣わされず、ただ、スドンのサレヤタ一人の寡婦にのみ（遣わされたり）。

26 But unto none of them was Elias sent, save unto Sarepta, a *city* of Sidon, unto a woman that was a widow.
27 また、先知るイリシヤが時、イスラヱリのうち悪瘡者多し。一人も浄めることを得ず。ただ、スリヤの人ナマンのみ（浄める）」。

27 And many lepers were in Israel in the time of Eliseus the prophet; and none of them was cleansed, saving Naaman the Syrian.
28 寄合屋の諸々の人、これを聞きて、甚だ怒る。

28 And all they in the synagogue, when they heard these things, were filled with wrath.
29 群がり起きて、村の外にこれを追い出して、かの村立つところの山の巌に引き至りて、これを押し落とさんとす。

29 And rose up, and thrust him out of the city, and led him unto the brow of the hill (whereon their city was built) that they might cast him down headlong.
30 ヱソ諸々の中に過ぎ越えて、而して、去り給う。

30 But he passing through the midst of them went his way,
31 カベナヲンに至りて、憩う日（＝安息日）にありて教ゆ。

31 And came down to Capernaum, a city of Galilee, and taught them on the sabbath days.
32 皆彼の教えを怪しむ。理威勢あるをもってなり。

32 And they were astonished at his doctrine: for his word was with power.
33 寄合屋に人ありて、悪魔の魂に祟れせられて、高き声にて呼びて曰く、

33 ¶And in the synagogue there was a man which had a spirit of an unclean devil; and he cried out with a loud voice,
34「ああ、ナザレのヱソ、我らと汝となんぞ預からんや。汝来たりて我らを破るや。我汝誰ぞと知る。爾神の聖なる者ぞ」。

34 Saying, Let us alone; what have we to do with thee, *thou* Jesus of Nazareth? art thou come to destroy us? I know thee who thou art; the Holy One of God.
35 ヱソこれを叱りて言い給わく、「口を閉じて、彼より出よ。悪魔これを皆が中に倒して、而して出ず。その人痛むことなし。

35 And Jesus rebuked him, saying, Hold thy peace, and come out of him. And when the devil had thrown him in the midst, he came out of him, and hurt him not.
36 皆これを怪しむ。合い告げて曰く、これ何の理や。蓋し、勢いと能とをもって、悪魔に命じて、而して、出ずる。

36 And they were all amazed, and spake among themselves, saying, What a word *is* this? for with authority and power he commandeth the unclean spirits, and they come out.
37 これにおいて、名誉れ遍く囲み地方に溢る。

37 And the fame of him went out into every place of the country round about.
38 ヱソ寄合屋より出て、スモンが家に入り、スモンが妻の母、熱病に染む（＝感染する）こと甚だし。ある人、彼がためにヱソに求む。

38 ¶And he arose out of the synagogue, and entered into Simon's house. And Simon's wife's mother was taken with a great fever; and they besought him for her.
39 ヱソ近く立ちて、熱病を罵り給えば、すなわち退く。女も起きて、彼らに備え仕うまつる。

39 And he stood over her, and rebuked the fever; and it left her: and immediately she arose, and ministered unto them.
40 日傾きて、人さまざま病を憂うる者を携え来る。ヱソいちいち手をかけて、これを治し給う。

40 ¶Now when the sun was setting, all they that had any sick with divers diseases,

brought them unto him: and he laid his hands on every one of them, and healed them.

41 幽霊もまた多く人より出て、呼びて曰く、「汝、いまし神の息子クレスト」。ヱソ彼らが己をクレストたるを知るゆえに、これを戒めて、「物言うことなかれ」と言い給う。

41 And devils also came out of many, crying out, and saying, Thou art Christ the Son of God. And he rebuking them, suffered them not to speak: for they knew that he was Christ.

42 暁、ヱソ野原に出て、諸々これを訪ねて着く。その去り給うことを欲せずして、而して、これを留む。

42 And when it was day, he departed, and went into a desert place: and the people sought him, and came unto him, and stayed him, that he should not depart from them.

43 ヱソの言い給わく、「我まさに神国の喜びの音信を、また別の村に伝えべし。我が遣いを受けたるはこれがゆえなり」。

43 And he said unto them, I must preach the kingdom of God to other cities also: for therefore am I sent.

44 これにおいて、ガリリの寄合屋に道理を伝え給う。

44 And he preached in the synagogues of Galilee.

1 **至り給う**：(H2)「イタル」(至る)。
2 **試みらん**：(H2)「コヽロマル」(試まる)。
4 **書き記す・・・**：(H1)「キヤウナカヱ・・」(経中へ・・)。
4 **餅のみ**：原文「もちにみ」。「モチノミ」は (H2) による。
7 **汝**：(H1)「イヤドン」(汝殿)。「イヤ (ヤー)」は二人称の呼びかけ。「ドン」は尊称か。
7 **拝せば**：(H2)「拝スルゴトキハ」(拝するごときは)。
8 **言い給わく**：(H2)「イハク」(曰く)。
8 **サタン**：(H1)「イヤテキ」(汝、敵) とあり、行間に「サタン、ヲニヤ」(サタン、鬼や) とある。
9 **息子**：(H1)「ムスコドン」(息子殿)。
14 **帰り給う**：(H2)「カヘル」(帰る)。その他、「・・給う」の表現が (W) で増えている。「入る」(H2) →「入り給う」(W)、「読む」(H2) →「読み給う」(W)、「座し給う」→「座す」。
14 **溢る**：原文は「あふ」。「アフル」は (H2) による。
15 **寄合屋**：synagogue (ユダヤ人の会堂) の翻訳。
16 **憩う日**：(H1)「ヨコヨルヒ (憩いる日)」＜ [ˈjukujɴ] (休む)。安息日のこと。

17　**文**：(H2)「サツ」(冊)。
25　**閉じらること**：(H2)「トヅル冂」(閉ずること)。
25　**寡婦**：(H1)「ヤグサミヲナゴ」['jagusami 'winagu] (寡婦)。
27　**悪瘡者**：(H1)「クンキヤア」[kuɴcaa] (癩病患者)。差別語。
29　**山（やま）の巌に**：(H2)「山（さん）ノフキバンタニ」。「フキバンタニ」の意味不明。
33　**悪魔**：(H2)「邪鬼（ジヤキ）」(H1)「マジモン（蠱物）」[mazimuɴ] (魔物)。(35、36節参照)。
33　**魂**：(H2)「マサシキ」(正しき)。
34　**爾**：「イマシ」には、副詞の「今しも」の意味の他に、「対称の人代名詞」(おまえ、あなた）の意味があり、いずれがこの場合に当てはまるか困難であるが、「汝」の意味に取った。
40　**いちいち**：原文は「一チ」(いち)。「いちいち」は（H2）による。
41　**「物言うことなかれ」と言い給う**：(H2)「モノイフ冂ナカラセン」(物言うことなからせん)。
42　**野原に出て**：(H2)「ノハルノトコロニイデヽ」(野原のところに出て)。

第五章

1 諸々これを押し挟みて、神の理を聞かんとする時、ヱソ、ケネザレの湖の浜に立ちて、

1 ¶And it came to pass that, as the people pressed upon him to hear the word of God, he stood by the lake of Gennesareth.

2 二つの舟湖にあるを見る。その漁り舟に離れて網を洗う。

2 And saw two ships standing by the lake: but the fishermen were gone out of them, and were washing *their* nets.

3 一つの舟スモンに属す。ヱソこれに乗りて、「陸より少し離れらしめよ」と願い給う。ついに座して舟内より民を教え給う。

3 And he entered into one of the ships, which was Simon's, and prayed him that he would thrust out a little from the land. And he sat down, and taught the people out of the ship.

4 言い終わりて、スモンに言うて言い給わく、「移りして深きところに至りて網を下ろして、もって漁りせよ」。

4 Now when he had left speaking, he said unto Simon, Lanch out into the deep, and let down your nets for a draught.

5 スモン答えて曰く、「夫子（＝先生)、我ら夜もすがら苦労すれども得るところなし。しかもあなたの言葉をもって、我すなわち網を下ろさんとす」。

5 And Simon answering said unto him, Master, we have toiled all the night, and have taken nothing; nevertheless, at thy word I will let down the net.
6 下ろせば、すなわち囲まるる魚、はなはだ多くて網はほとんど裂ける。
6 And when they had this done, they inclosed a great multitude of fishes: and their net brake.
7 その別舟におるの友だちを招き、来りて助けしめて、魚を二つの舟に満てて、沈むにおよばんとす。
7 And they beckoned unto their partners, which were in the other ship, that they should come and help them. And they came, and filled both the ships, so that they began to sink.
8 スモン・ペテロ、これを見て、ヱソの足下に俯して曰く、「君、去り給えよ。我いまし罪人」。
8 When Simon Peter saw *it,* he fell down at Jesus' knees, saying, Depart from me; for I am a sinful man, O Lord.
9 スモンと連れの人と、皆驚くと、かくほど多くの魚を獲るによってなり。
9 For he was astonished, and all that were with him, at the draught of the fishes which they had taken:
10 スモンが同伴、すなわちスベダイが二人の息子ヤコベとヨハンとまた然り。ヱソのスモンに言い給わく、「恐ることなかれ。今よりして後、汝人を釣るべし」。
10 And so *was* also James and John the sons of Zebedee, which were partners with Simon. And Jesus said unto Simon, Fear not: for henceforth thou shalt catch men.
11 それらは、舟を陸に曳き上し、こと皆捨てて、ヱソに従う。
11 And when they had brought their ships to land, they forsook all, and followed him.
12 ヱソ一つの村にておる時、見よかな、全き身悪瘡を患うの人ありて、ヱソを見て、俯して、請いて曰く、「君、承け込まば、能く我を潔うにす」。
12 ¶And it came to pass, when he was in a certain city, behold, a man full of leprosy: who seeing Jesus, fell on *his* face, and besought him, saying, Lord, if thou wilt, thou canst make me clean.
13 ヱソ手を伸べて、これを撫でて言い給わく、「我承け込む。汝潔うにせよ」。

悪瘡はすなわち除く。

13 And he put forth *his* hand, and touched him, saying, I will: be thou clean. And immediately the leprosy departed from him.

14 ヱソこれを戒めるに、「人に告げることなかれ。ただ、行きて、己を祭司に見せしめて、モセが言い付けのとおり、汝が潔うせらるによって礼を奉りて、諸々に証拠をなせよ」と言う。

14 And he charged him to tell no man: but go, and shew thyself to the priest, and offer for thy cleansing, according as Moses commanded, for a testimony unto them.

15 しかれども、その名誉れ、いよいよ現る。大いなる群がりども集まりて聞く。その病治さるることを望む。

15 But so much the more went there a fame abroad of him: and great multitudes came together to hear, and to be healed by him of their infirmities.

16 ヱソ退きて野原に行きて、祈り給う。

16 ¶And he withdrew himself into the wilderness, and prayed.

17 ある日、彼の教えをしゆるに、フハリスども法義の師匠ども、ガリリの村々、ヨテヤ、ヱルサレンより来りて、座することあり。主はその能を現して、もって彼らを治す。

17 And it came to pass on a certain day, as he was teaching, that there were Pharisees and doctors of the law sitting by, which were come out of every town of Galilee, and Judea, and Jerusalem: and the power of the Lord was *present* to heal them.

18 中風する者を寝床に携う者あり。空き間を尋ねて、而して、入りて、ヱソの前にこれを置かんと欲す。

18 ¶And behold, men brought in a bed a man which was taken with a palsy: and they sought means to bring him in, and to lay *him* before him.

19 人多くして入ることを得ず。いまし家の頂きに上りて、瓦の中より敷き布団とともに、ヱソの前に降ろしたり。

19 And when they could not find by what way they might bring him in, because of the multidtude, they went upon the house-top, and let him down through the tiling with *his* couch, into the midst before Jesus.

20 ヱソこれらが信ずるを見て、中風する者に言うて言い給わく、「人か、汝が罪赦さるる」。

20 And when he saw their faith, he said unto him, Man, thy sins are forgiven thee.

21 学者、フハリスども評議して曰く、「この汚らすの悪言する者、誰ぞや。神の他誰か能く罪を赦すや」。

21 And the scribes and the Pharisees began to reason, saying, Who is this which speaketh blasphemies? Who can forgive sins, but God alone?

22 ヱソ彼らが思いを悟りて言い給わく、「汝らなんそれぞ、心に評議するや。

22 But when Jesus perceived their thoughts, he answering said unto them, What reason ye in your hearts?

23『罪赦さるる』と言うは、『起きて行けよ』と言うと、いずれが易きぞや。

23 Whether is easier to say, Thy sins be forgiven thee; or to say, Rise up and walk?

24 ただ、汝らに人間の息子、地にありて罪を赦すの勢いあることを知らしむがため」。ついに中風する者に言うて言い給わく、「我汝に、起きて寝床を取りて、家に帰れよ」と言い付ける。

24 But that ye may know that the Son of man hath power upn earth to forgive sins. He said unto the sick of the palsy, I say unto thee, Arise, and take up thy couch, and go into thine house.

25 その人すなわち起きて、諸々の前にありて、寝具を取りて己が家に帰りて、神を栄光輝かす。

25 And immediately he rose up before them, and took up that whereon he lay, and departed to his own house, glorifying God.

26 皆これを怪しみて、また神を栄光輝かし、また驚きて曰く、「今日存外のことを見たる」。

26 And they were all amazed, and they glorified God, and were filled with fear, saying, We have seen strange things to day.

27 その後、ヱソ出てレヒイと名付けるの貢ぎ役、貢ぎをとるの場に座するを見て、これに言うて言い給わく、「我に従えよ」。

27 ¶And after these things he went forth, and saw a publican named Levi, sitting at the receipt of custom: and he said unto him, Follow me.
28 ついに諸々のことを捨てて置きて、而して、これに従う。
28 And he left all, rose up, and followed him.
29 レヒイは己が家にありて、ヱソに大振舞いし、多くの貢ぎ役別人とともに座す。
29 And Levi made him a great feast in his own house: and there was a great company of publicans and of others that sat down with them.
30 学者、フハリスどもとそして彼の弟子に曰く、「汝ら貢ぎ役、罪人たちとともに飲食するは、何ぞや」。
30 But their scribes and Pharisees murmured against his disxciples, saying, Why do ye eat and drink with publicans and sinners?
31 ヱソ答えて言い給わく、「達者の者は医者を頼まず。いまし病む者のみ。
31 And Jesus answering, said unto them, They that are whole need not a physician; but they that are sick.
32 我来りて、義ある人を呼ばうにあらず。いまし罪人を悔やみ改めらすのためのみ」。
32 I came not to call the righteous, but sinners to repentance.
33 皆曰く、「ヨハンの弟子しばしば食い止めて祈る。フハリスどもの弟子また然り。ただ、汝が弟子飲食するは何ぞや」。
33 ¶And they said unto him, Why do the disciples of John fast often, and make prayers, and likewise the disciples of the Pharisees; but thine eat and drink?
34 ヱソの言い給わく、「花婿同じくあり。いずくんぞよく花嫁の家人を食い止めさせるや。ただ、日来りて、花婿彼らに別れんとす。かの時いまし食い止める。
34 And he said unto them, Can ye make the children of the bride-chamber fast, while the bridegroom is with them?
35 ただ日来りて花婿彼らに別れんとす。かの時、いまし食い止める。
35 But the days will come, when the bridegroom shall be taken away from them, and then shall they fast in those days.
36 また、譬えを設けて、諸々に言うて言い給わく、「未だ古き衣を補うに、新しき布を用ゆる者あらず。おそらくは、新しきは、その古きを裂くり、而して、

その新の切れ、古きと合わざることを。

36 ¶And he spake also a parable unto them; No man putteth a piece of a new garment upon an old; if otherwise, then both the new maketh a rent, and the piece that was *taken* out of the new, agreeth not with the old.

37 未だ新の葡萄酒盛るに、古き樽を用ゆる者あらず。おそらくは、新の酒、その樽を破り、酒も盛り樽も、また失うことを。

37 And no man putteth new wine into old bottles; else the new wine will burst the bottles, and be spilled, and the bottles shall perish.

38 ただ、新の酒盛るに必ず新の樽をもってす。すなわち二つの物を兼ね全くす。

38 But new wine must be put into new bottles; and both are preserved.

38 未だ、古き酒を飲みて、速やかに新しきを願う者はあらず。よって「古きもの優れり」と言う。

39 No man also having drunk old *wine* straightway desireth new: for he saith, The old is better.

3 **教え給う**：(H1)「ナラアキヤン」(習わせる＝教える) [naraasjuɴ]は ([narajun] (習う) の使役形)。
5 **あなたの言葉**：(H2)「ナンヂガコトバ」(汝が言葉)。
6 **囲まるる魚**：(H2)「ウヲヽツヽミコヽム冂」(魚を包みこむこと)。
7 **友だち**：(H1)「あいじよ」(仲間)。[ʔeezuu] (相中＝仲間、同僚)。
9 **驚く**：(H2)「ヲドロカズトイフコトナシ」(驚かずということなし)。
10 **汝、人を釣るべし**：(H1)「イヤガヒトトヨスヤウヲトルガゴトシ」(汝が人を捕るよう、魚を獲るが如し」。
12 **見よかな**：「かな」は命令文に付けて、第三者の動作の実現を願う意を表す。「見て欲しいなあ」。
12 **全き身**：(H2)「全身」と漢字表記で、右に「ゼンシン」、左に「マツタキミ」のルビあり。
17 **法義の師匠**：(H1)「ボウヲシヘルシヽヨウ」(法教える師匠)。
19 **寝床**：(H1)「シチフトン (敷き布団)」。
20 **人か**：「か」は、江戸時代、上流語で、下女などの呼びかけの名の下に付けた語。
21 **悪言**：(H1)「ミダリグチ (乱れ口)」。「冒涜」の意。
30 **飲食する**：(H1)「カム」(噛む)。
27 **貢ぎ役**：(H1)「ジヤウナウガミイ (上納上)」。
28 **諸々**：(H1)「ソヲタイ (総体)」。
34 **食い止めさせるや**：(H2)「クイヤメラシムルヤ」。(食い止めらしむるや)。
34 **花婿**：(H1)「ミイムコ」[miimuuku] (花婿)。「ミー」は「新しい」の意味で、35?38節に「ミイ」が頻出する。「ミイヌノ」(36)、「ミイザケ」(37)、「ミイブクロ」(37)。なお、「花嫁」は「ミイユミ」。
35 **別れんとす**：(H2)「ワカサレントス」(別されんとす)。
36 **補うに**：(H2)「修補スルニ」(修補するに)。